

徳山高専だより

Tokuyama College of Technology

2008年度 No.62



徳山工業高等専門学校

目次

ホームページ Top News で綴る徳山高専この1年……	2
“きゃりPi”稼働中！—こちら、進路支援室……	6
第34回 高専祭を終えて……	10
就職・進学状況……	12
就職・進学試験体験記……	17
卒業生だより……	22
退職者あいさつ……	25
新任者紹介……	31
写真で綴る「図書館だより」の27年間……	35
第10回徳山高専きらめきコンテスト……	38
図書館時間外開館補助員の感想……	40
編集後記	



教室・管理棟や玄関前ロータリー等が改修されました
(2008年7月下旬撮影)

徳山高専この1年

全国高専キャラバン 来校



2008年1月11日

「全国高専キャラバン」は、学生のITに対する関心を高め、理解を促進する施策と位置づけられ、(独)国立高等専門学校機構とマイクロソフト(株)が2008年3月末まで実施している企画です。マイクロソフト(株)の社員(アカデミックエバンジェリスト)がキャラバンカーでまわり、最新のIT技術に係る講演を行います。全国高専プログラミングコンテストの会場である津山高専を10月にスタートし、各地の高専をめぐり1月11日に来校されました。

第1回全国高専英語プレコン 出場



2008年1月26日～27日

1月に国立オリンピック記念青少年総合センターで開催された、第1回全国高等専門学校英語プレゼンテーションコンテスト(スピーチ部門)に吉永晴香さん(土木建築工学科4年)が出場しました。吉永さんは、帰国子女や長期英語研修経験者が多数出場している中、すばらしいスピーチを披露し、聴衆から大きな拍手を受けました。中国大会とは違い、全国大会には3人組で高専らしい内容のプレゼンテーションを英語で行う、プレゼンテーション部門もありますので、来年度はその部門にチャレンジしようと燃えています。

第30回卒業式・第12回専攻科修了式



2008年3月14日

本科卒業式では、アルゼンチンとカンボジアからの留学生を含む128名に卒業証書が、専攻科修了式では機械制御工学専攻4名、情報電子工学専攻4名、環境建設工学専攻9名の計17名に修了証書とJABEE「設計情報工学」プログラム修了証が、校長から一人ひとりに授与されました。式終了後、後援会の主催で行われた卒業・修了記念祝賀会では、先生方を囲んだ記念撮影などで華やかなひとときを過ごしました。今後、みなさんの夢に挑戦され、社会に貢献されることを期待いたします。

第35回入学式・第14回専攻科入学式



2008年4月6日

桜が満開の4月6日、機械電気工学科40名、情報電子工学科43名、土木建築工学科46名、留学生2名、編入学生4名が本科入学生として、機械制御工学専攻5名、情報電子工学専攻13名、環境建設工学専攻12名が専攻科入学生として、合計165名の入学が許可されました。新入生の皆さん入学おめでとうございます。

中国・四国地区高専専攻科交流会 専攻科生14名が研究発表



2008年4月25日～26日

中国・四国地区14高専の専攻科生研究交流会在、高知市で開催されました。専攻科生研究交流会は、中国・四国地区の高専専攻科2年生が集まり 研究成果を発表し（発表時間は一人10分、質疑応答3分）意見交換を行う交流会です。参加した本校の専攻科生14名も、近隣高専の専攻科生との交流を深め、実りの多い交流会となりました。

文部科学省「産学官連携戦略展開事業(コーディネータープログラム)」に採択・コーディネーター配置



2008年7月1日

中国地区の8高専が高専ごとに行ってきた地域連携と知的財産の創出・活用を広域で取り扱うため、中国地区の拠点機関の役割を担う徳山高専にコーディネーター加治哲徳氏(写真右端)が配置されました。これにより、中国地区のシーズとニーズのマッチングや産学官連携を促進し、イノベーション創出による地域発展を図ることが期待されます。写真は、7月3日の記者発表の様子です。

中国地区高専体育大会 バレー部優勝 3連覇達成



2008年7月5日～6日

米子市民体育館で開催された第44回中国地区高等専門学校体育大会において、バレー部が優勝し、中国大会3連覇を成し遂げました。初日の予選リーグでは、大島、呉、宇部に全て2-0でストレート勝ちし、2日目の準決勝では、米子と対戦し2-0で、決勝戦では、松江と対戦し、こちらも2-0で勝つことができました。たくさんの関係者、保護者、OBの方々に応援にきていただいたおかげで、監督、コーチ、選手、応援が一体となって優勝を勝ち取るというすばらしい大会になりました。ありがとうございました。

全国高専体育大会 バドミントン女子ダブルス優勝 団体3位



2008年8月23日～24日

函館市民体育館で開催された第43回全国高等専門学校体育大会バドミントン競技において、女子ダブルス河村美咲さん(土木建築工学科1年)、古城朋子さん(情報電子工学科1年)の組が1回戦2-0(八代)、2回戦2-1(鶴岡)、準決勝2-0(弓削)、決勝2-0(鶴岡)で下し、優勝しました。また、大村恵未さん(情報電子工学科4年)、片山美乃里さん(土木建築工学科3年)、河村さん、古城さんの4人で挑んだ女子団体戦でも3位に入る健闘を見せてくれました。コーチ、保護者、OB・OGの方々のご支援のおかげです。ありがとうございました。

全国高専体育大会 優勝、準優勝を周南市長に報告



2008年9月11日

8月に北海道で開催された第43回全国高等専門学校体育大会バドミントン女子ダブルスで優勝した河村美咲さん(土木建築工学科1年)、古城朋子さん(情報電子工学科1年)、卓球男子シングルスで準優勝した坪金 靖君(機械電気工学科3年)が、校長らと周南市役所を訪問し、島津市長に報告をしました。選手らは、緊張の面持ちで大会の戦績や練習の苦労話を語り、市長から、「大変素晴らしいことです。来年・再来年と連覇を期待します！」と激励の言葉をいただきました。

プロコン全国大会課題部門 特別賞受賞



2008年10月11日～12日
福島県いわき明星大学で開催された全国高等専門学校第19回プログラミングコンテストで、本校のニューメディア部の作品「ボクとどうぶつひととき」が課題部門の特別賞を受賞しました。この作品は、ユーザーが画面内に入り込むことによって、画面内の動物と遊ぶことのできるシステムです。このシステムによる動物との楽しいひとときが心にゆとりを生み出し、課題部門のテーマ「ゆとりを生み出すコンピュータ」をよく反映したシステムとなっています。高専祭でのデモンストレーションも行われました。

国民体育大会なぎなた競技 国体栄誉賞受賞



2008年10月23日
9月に大分県で開催された国民体育大会なぎなた競技（少年女子団体・試合の部）で第5位に輝いた椎木英理子さん（土木建築工学科3年）に、10月23日、校長室において山口県教育庁 中村審議監から国体栄誉賞のメダルが授与されました。中村審議監は、少年種別で山口県勢初の入賞を果たした功績を讃えられ、「3年後の山口国体での活躍を期待します」との励ましの言葉をのべられました。椎木さんは「山口国体をめざし、頑張ります」と決意を新たにしていました。

高専ロボコン2008 中国地区大会優勝・全国大会ベスト4進出



2008年10月26日・11月23日
10月26日に津山市で開催された、「アイデア対決・全国高等専門学校ロボットコンテスト2008中国地区大会」において、徳山高専Bチーム「ロボット名：ツヨシ猿回し」が優勝を飾り、特別賞（東京エレクトロンFE（株））も受賞しました。また、Aチーム「ロボット名：晴るる」が特別賞（（株）安川電機）を受賞しました。11月23日、東京・両国国技館で開催された全国大会に出場した「ツヨシ猿回し」は、ベスト4に進出しました。（写真：中国地区大会）

社会保険事務局長賞、市美展準大賞受賞 校長に報告



2008年11月13日
平成20年度国民年金ポスターコンクールにおいて美術部藤田恵美さん（土木建築工学科1年）が社会保険事務局長賞に選ばれました。また、藤田さんは山口県が主催する愛鳥週間ポスターコンクールにおいても最優秀賞を受賞しました。同じく美術部桐田朋枝さん（土木建築工学科1年）はこの秋に行われた第6回周南市美術展2008に油絵「夕日が沈んだ高専坂」（写真）という作品を出展し、平面の部で市美展準大賞に選ばれ、10月15日に周南市美術館で表彰を受けました。11月13日、美術の非常勤講師の佐古先生も同席され、校長に受賞の報告をしました。

中国地区高等専門学校英語弁論大会 2連覇達成



2008年11月14日～15日
広島県竹原市で開催された第24回中国地区高等専門学校英語弁論大会に、園田卓也君(機械電気工学科2年)、波多野さやかさん(土木建築工学科2年)、楊井夕貴さん(土木建築工学科1年)が出演し、ベストパフォーマンスを披露してくれました。その結果、波多野さんがスピーチ部門で初出場、初優勝しました。これは、本校にとって昨年度に続く2連覇です。波多野さんは、1月24日、25日に東京で開催される第2回全国高等専門学校英語プレゼンテーションコンテストに出場します。

パソコン甲子園2008 プログラミング部門大健闘



2008年11月8日～9日
福島県会津若松市で開催された、「パソコン甲子園2008」本選のプログラミング部門に、平櫛貴章君(情報電子工学科3年)、三坂 奨君(情報電子工学科3年)が参加しました。パソコン甲子園は全国の高校生及び高等専門学校生などが、情報処理技術における優れたアイデアと表現力、プログラミング能力等を競い合うことにより、自身のスキルアップを図るとともに、情報化社会を支える人材の裾野を広げることを目的としたもので、平櫛君、三坂君チームは初出場です。予選参加358チームから本選参加20チームに選ばれ、本選でも第7位と大健闘しました。

第1回中国地区高専テクノ・マーケット



2008年12月5日～6日
広島市の広島産業会館において、第1回中国地区高専テクノ・マーケットが開催されました。これは、全国の55高専が戦略的に「地域イノベーションの創出」を図る活動の一環として、徳山高専を世話校として中国地区8高専が合同で開催したもので、全国でも初めての試みでした。初日の研究シーズ発表に始まり、6日には、小田高専機構理事による「高専機構の知財戦略」についての講演(写真)など多様な催しが行われ、産業界からも多くの参加があり、終始会場全体が熱気に包まれていました。

英語プレゼンテーションコンテスト 全国大会へ



2008年12月8日
1月24日、25日に国立オリンピック記念青少年総合センターで開催される第2回全国高等専門学校英語プレゼンテーションコンテストのプレゼンテーション部門(3人組でパワーポイントなどを用い、英語で10分間のプレゼンテーションをする競技です)の予選に、森下瑠理子さん(環境建設工学専攻2年)、吉永晴香さん(土木建築工学科5年)、濱崎翔平君(土木建築工学科4年)がチームを組んで参加し、見事全国大会行きを決めました。レベルの非常に高い全国大会ですが、ベストパフォーマンスを目標に頑張ります。

“キャリアP i”稼働中！ ・ ・ ・ こちら、進路支援室 ・ ・ ・

進路支援室長
一般科目 准教授 一色 誠子

設置から5年 ・ ・ ・ ・ ・

2004(平成16)年度に進路支援室が設置されてから、今年度で5年目です。周知のとおり、進路支援室は、学生みなさんの〈キャリア形成〉

と〈キャリアプランの実現〉を支援しています。

「進路支援プログラム」 ・ ・ ・ ・ ・

学生のみなさんに自分自身の〈キャリア〉(生き方)について積極的に考えてもらうために、本科1年生から専攻科2年生までの全学生を対象にした「進路支援プログラム」(右ページ図)を、作成し、低学年からの段階的なキャ

リア教育を実施しています。これらのプログラムは、毎年「進路支援プログラム策定会議」(進路支援室と各学年のクラス担任、各主事室、学生相談室で構成)で、審議し作成しています。

「自主自立誘導型キャリア教育システム」 ・ ・ ・

また、2006(平成18)年度に採択された現代GP——「自主自立誘導型キャリア教育システム」(申請代表者：土木建築工学科田村隆弘教授/前進路支援室長)——の取り組みにより、キャリア教育支援がさらに充実してきました。

本年度が最終年度になりましたこのGPの取り組みは、学生のみなさんが、広い視野と豊かな感性と表現力、そして高い環境対応能力を身につけ社会で活躍できる、いわゆる“コンピテンシー”の高い技術者(人物)になるように、〈気づき・考え・自ら行動する〉ことのできる教育システムの構築を目的としています。

また、これらの教育システムは、次の3項目を総合的に行うものです。一つ目は、積極的に学ぶ姿勢を引き出し、社会の中で自分自身にどれだけの価値があるかを探してそれを確信す

る三つの「キャリア育成プログラム」—— ①感性・表現力育成プログラム ②社会性育成プログラム ③巣立ちの準備支援プログラム——の実施です。二つ目は、学生自らがキャリア学習プランを意欲的にマネジメントし、努力してきた成果と履歴を一年ごとに自身で容易にかつ楽しみながら確認できる、キャリアICカードを用いた「キャリア学習履歴管理システム」の開発と運用です。そして、三つ目は、低学年から段階的に培われてきたキャリア教育の成果を実績として評価するために、「マイレージ制」を導入し「キャリア学修単位」の認定を行うことです。昨年度から実施されているこの制度を利用し、貯めたマイレージをキャリア学修単位に交換し、単位を取得した学生もいます。

平成20年度進路支援プログラム

徳山工業高等専門学校 進路支援室 (2044)

- このプログラムは、学生への進路支援活動の経緯と具体的活動内容を、学年毎に示すものです。学生が、有意義な学生生活を営むための助けかけを行い、進路の教育目標を達成して、的確な進路を見出すことと支援するもので、教員の報告・連絡・協力のもとに計画・実施します。
- 色分け項目：進路支援室及び学生相談室で計画実施する場合は、 は、クラス全員を対象とした活動、 は、進路支援室の企画です。
- 色無し項目：進路支援室以外で行う企画項目です。

学年	本 科					専 攻 科		備 考	
	1 年 生	2 年 生	3 年 生	4 年 生	5 年 生	1 年 生	2 年 生		
目標	職業生活の進出し方をアドバイス・学びの楽しさを覚悟	キャリアデザイン・就職の夢を思い出し、将来を思いも	キャリアデザイン・職業生活の楽しさを思い出し、将来を思いも	キャリアデザイン・就職の夢を思い出し、将来を思いも	進路決定・職業生活の進出し方を具体的に選択する	キャリアデザイン・就職の夢を思い出し、将来を思いも	進路決定・職業生活の進出し方を具体的に選択する		
4月	新入生オリエンテーション(新入生、学生生活ガイダンス)	入学ガイダンス(新入生、学生生活ガイダンス)	入学ガイダンス(新入生、学生生活ガイダンス)	入学ガイダンス(新入生、学生生活ガイダンス)	進路ガイダンス(専攻科)	進路ガイダンス(専攻科)	進路ガイダンス(専攻科)		
5月	11月19日「就職」職業生活の進出し方(1年生のアドバンス)		11月19日「就職」職業生活の進出し方(2年生のアドバンス)	11月19日「就職」職業生活の進出し方(3年生のアドバンス)	専攻科 個人進路指導		11月19日「就職」職業生活の進出し方(2年生のアドバンス)		
6月		11月19日「就職」職業生活の進出し方(専攻科生アドバンス)						11月19日「就職」職業生活の進出し方(専攻科生アドバンス)	11月19日「就職」職業生活の進出し方(専攻科生アドバンス)
7月			11月19日「就職」職業生活の進出し方(専攻科生アドバンス)						
10月			11月19日「就職」職業生活の進出し方(専攻科生アドバンス)						
10月	11月19日「就職」職業生活の進出し方(本学説明会による講話)	11月19日「就職」職業生活の進出し方(1学年)		専4ノ就職ガイダンス・OP1		専4ノ就職ガイダンス・OP1	専4ノ就職ガイダンス・OP1	11月19日「就職」職業生活の進出し方(本学説明会による講話)	
11月		11月19日「就職」職業生活の進出し方(2学年)		専5ノ就職ガイダンス・OP2		専5ノ就職ガイダンス・OP2	専5ノ就職ガイダンス・OP2	11月19日「就職」職業生活の進出し方(2学年)	
12月		11月19日「就職」職業生活の進出し方(3学年)		専6ノ就職ガイダンス・OP3 専7ノ就職ガイダンス・OP4		専6ノ就職ガイダンス・OP3 専7ノ就職ガイダンス・OP4	専6ノ就職ガイダンス・OP3 専7ノ就職ガイダンス・OP4	11月19日「就職」職業生活の進出し方(3学年)	
1月			11月19日「就職」職業生活の進出し方(4学年)	専6ノ就職ガイダンス・OP3 専7ノ就職ガイダンス・OP4		専6ノ就職ガイダンス・OP3 専7ノ就職ガイダンス・OP4	専6ノ就職ガイダンス・OP3 専7ノ就職ガイダンス・OP4	11月19日「就職」職業生活の進出し方(4学年)	
2月				専7ノ就職ガイダンス・OP4		専7ノ就職ガイダンス・OP4	専7ノ就職ガイダンス・OP4		
3月			新入生オリエンテーション	専7ノ就職ガイダンス		専7ノ就職ガイダンス	専7ノ就職ガイダンス		

※11月19日については、オンラインによる学習指導や個別指導もあり、本プログラムに貢献していません。
 ※夏期休暇セミナーについては、臨時行われるものが多いため、本プログラムには掲載していません。
 ※大学学生相談室の計画もなっています。
 ※企業説明会等の計画もしています。

(図：進路支援プログラム)



キャリアサポートブース



きやりPiの入力説明

“きゃりPi” 本格運用

前述しました、「キャリア学習履歴管理システム」——愛称、“きゃりPi”が誕生し、本格運用が始まっています。

ちなみに、“きゃりPi”の「きゃり」は、

キャリアICカードの“きゃり”から。「Pi」は、ICカードをカードリーダーに通したときに出る音からとって名づけました。ご愛顧のほど！



(図：きゃりPiログイン画面)



ICカードによる出席登録

さて、この“きゃりPi”は、キャリア育成プログラムの登録、進路支援セミナーの申込み登録、ポートフォリオの作成・確認、取得マイレージの確認ができるシステムで、進路支援室のホームページから入ることができます。学内（学寮含む）からでしたら、いつでもアクセス可能です。また、進路支援ブース（学生談話室内）にある、ノートパソコンも午後7時まで開放していますので、活用してください。

“きゃりPi”の機能の中でも特に、ポートフォリオ機能は学生のみなさんの今とこれからにとって、強い味方になるに違いありません。

ポートフォリオには、前年度の成績や出欠席の状況を確認できる機能も備わっています。すでに、この一年の歩みを書き溜めつつある学生のみなさんも多数います。書くことにより、自分自身の軌跡をたどることができ、次の目標を立てることにつながっていきます。昨年と違った今年の自分を発見することもできます。これがまさに、キャリア（生き方、歩み）なのです。積極的にこの機能を活用して、「世界でたった一つの、私だけのポートフォリオ」を作成してくれることを期待しています。

学生のみなさんへのメッセージ♪

進路支援室で用意している「進路支援プログラム」「キャリア育成プログラム」「きゃりPi」これらのシステムは、みなさんのキャリア育成のためのほんのお手伝いです。

大切なのは、学生のみなさん自身がどうする

か、どう考えるかです。例えば、各種プログラムに参加し、システムを利用する過程で、自分自身の位置や自己価値に気づき、そこから考えた次のステップに積極的に行動を移すことができます。

〈気づき〉⇒〈考え〉⇒〈行動する〉を繰り返す中で、《揺るぎない軸を持った「確かな私」》を作り、自らの道を切り開いていきましょう。自分の中にしっかりとした《軸》しかも、《ぶれない軸》を持った人は、逆境に強いのです。「確かな私」がありますから、臨機応変に対応もできます。

あなたの《人生の歩き方・道》は、あなた自身にしか作れません。いかなる「道」も、みなさんのために常に開かれています。活かすのはみなさん自身です。みなさんにとって、よりよい「道」を歩んでいけますように、われわれ進路支援室は応援しています。

進路支援室からのお知らせ

最後に、進路支援室から「お知らせ」を二点。

一つは、進路支援室のホームページについてです。進路支援室のホームページには、「キャリアP i」のほかに、お知らせや、プログラムの告知・実施報告、徳山高専の進路情報データベースにもアクセスできます。

みなさんの進路やキャリアを考えるヒントの一つとして活用してください。

もう一つは、進路支援室の新たな動きです。今、我々を取り巻く社会は激変しています。と

同時に、学生の多様化も進んでいます。これらを見据え、学生の10年後、20年後の「キャリア形成」を考えた教育と支援がより強く学内外から求められています。そこで、学生のよりよいキャリア形成のために、またコンピテンシーの高い学生を育てるために、進路支援室の活動を多角的に進めたいと考え、2009(平成21)年4月1日より、「キャリア教育支援室」に名称変更します。なお、詳しい内容と活動計画については別の機会にお伝えします。



(図：進路支援室ホームページ)

第34回 高専祭を 終えて

■2008年度学生会長 機械電気学科4年 中道 裕也

今年の学生会は eco(e:everyone c:create o:original) という年間テーマをもとに活動を行ってきました。

具体的には美化局を中心としたゴミの分別の徹底や、近隣の住民の方たちとの清掃活動を主に行い、今年はゴミの分別を徹底することで、学生一人一人の意識を変えることが出来たと思います。これは今年の学生会全体としての一つの大きな収穫のように思います。

年間テーマの create original という部分では、やはり高専祭が挙げられると思います。今年は昨年以上に早い段階から各部署が動き出してくれて、最高の高専祭を作り上げることが出来たと思います。スタードームやステージ企画、ファッションショー、ロボコンどれも素晴らしかったように思います。学生会長という大役を任せられ、学生会をスタートする前まで正直とても不安でした。けれども、実際にスタートすると周りには自分を支えてくれる人たちがたくさんいて、精神的にも本当に助けられました。

この一年間、本当にありがとうございました。

■高専祭実行委員長 機械電気学科4年 長沼 臣弥

今年も学生会役員を中心に学校全体で取り組んだ高専祭は非常に内容のあるものになったと思います。みなさんご協力ありがとうございました！先輩方から受け継がれてきて今年で34回目、みんなが楽しみながら笑顔でたくさんのハラハラ、ワクワクな経験ができました(^ω^)

来年も期待しています！！

■メイン 情報電子学科4年 岡藤 将也

高専祭を終えて、本当に多くの事を学べたと思います。運営の大変さや、企画する事の難しさ…特に友達の大切さを改めて学ぶ事が出来ました。

今年度のメイン企画「プラネタリウム」を見に来てくださった方、本当にありがとうございました。皆さんがかけてくださった言葉や、笑顔が自分たちの誇りと自信になっています。

■ステージ 情報電子学科4年 竹本 優太

『皆さんに笑いと感動をお届けする』それが私たちステージ企画の唯一最大の目標でした。準備期間には、暇さえあれば企画を考え、買出しに走り回りました。本番では司会進行を務め、時にはその身を挺して盛り上げようと思いました。無事に終えた今、心に残るのは人を楽しませることの難しさ、仲間の大切さ、そして協力してくださった方々や、観に来てくださった方々への感謝の気持ちですね。皆さんの笑顔がとても力になりました。

ありがとうございました！



フィナーレ時の集合写真



第34回学生会集合写真

■当夜祭 土木建築学科4年 岡本 千春

当夜祭は、高専祭2日目の吹奏楽部による演奏から始まり、皆さんが楽しみにしている毎年恒例のライブやファッションショーを行いました。たくさんの方が集まってきて大盛況だったと思います。今年の高専祭の成功はみんなのおかげでした。仲間たちともいい思い出が出来ました。

■広報 土木建築学科4年 木村 未希

高専祭一ヶ月前。1日24時間のうちの21時間パソコンと一緒に過ごした時期・暇があれば資金の計算やパンフレット制作をしました。

ひとつのものを作り上げるために一緒に必死になれた友達がいたからこそできたことです。高専祭は自分自身を大きく成長させ、一生に一度の最高の思い出になりました。

みんなありがとう。お疲れ様！



イケメン6人組



ファッションショー集合写真

■物品・バザー 情報電子学科4年 隅 綾子

物品・バザーでは、物品の管理やバザーの総括を行いました。高専祭当日まで、重いバザーの資料を毎日持ち歩き、パソコンで高専祭委員に配布するプリントを何枚も作りました。それは決して簡単な仕事ではありませんでしたが、高専祭当日会場に並んだテントなどを見て、やっと形になったのだと思い、大きな達成感を感じたことをよく覚えています。

■美化 土木建築学科4年 山根 成史

美化局の今年度の活動テーマは去年と同様に「もったいない」をテーマにして活動してきました。

高専祭までの活動は、使用済み段ボールを利用した二人掛けのベンチやごみ箱を造るなどのリサイクル活動を行いました。当日は会場内のゴミ袋の回収・交換作業や、焼きおにぎりを販売しました。段ボールベンチに座っている人を見たとき、自分たちの努力が報われました。

最後に高専祭という大きなモノを創りあげるには、仲間の協力が必要であるということを変えて実感させられました。

みんなありがとう。

■ロボコン 機械電気学科4年 西村 仁志

今年の周南ロボコン2008では例年より多く、約130チームの参加があり大盛況となりました。参加者の技術力が高く、ハイレベルな戦いが体育館で繰り広げられました。

当日はロボコンで忙しく、ステージ企画などあまり参加することができませんでしたが、参加者から多くの感動をもらうことができ、本当に良い経験になったと思います。

来年も数多くの参加者が来て、今年以上のものになれば嬉しいです。

■案内 土木建築学科4年 川口 恵

去年も案内部署で活動をさせてもらっていたのですが、見えないところで先輩方が作業をしてくれていたため、あまり内容を把握できてなかった部分もありました。しかし、部署のメンバーや他の部署の人たち、学生会以外の人たちの協力のおかげで、高専祭当日までに門を完成させることが出来ました！

ありがとうございました！

■会場 機械電気学科4年 松本 卓也

まず高専祭が無事に終わったことを喜ばしく思っています。会場の仕事は自分たちだけでなく、各クラスの交通問題対策委員の力添えがあって成り立っていました。会場の仕事はステージ企画やファッションショーのように目立つことはありませんが、高専祭を陰で支える大切な仕事です。私たちは会場の仕事ができることを誇りに思います。

機械電気工学科

就職・進学状況

進路について考える時期



5年担任 機械電気工学科
准教授 池田 光優

今年の5年生は本当に運が良かったとしか言いようがありません。本学科の最後の内定者が出た日(2008/6/10)とこの原稿を執筆している時点(2008/12/31)では平均株価は半分ほどに下がっています。現在は金融危機が製造業の売上げを圧迫し、来年度以降、これまでのような求人社数があるかどうかはわかりません。(09年度はまだ大丈夫のようである)なので、これからの内容は4年生以下の学生諸君にはあまり当てにならないかもしれませんが、大事なことは今年も来年以降も変わらないと思うので、一回は目を通してください。

平成20年度は、最初の企業からの求人訪問があったのが、平成19年9月13日でした。この時期はOBによる継続的な求人に対する訪問でしたが、私にとっての就職活動はこの日から始まったと思っています。この時期はまだ4年生は研修旅行にも行っていない時期で、企業の求人活動が早まっているということは、大学だけではないということも認識してほしいと思います。その後企業の求人訪問が本格化してきたのは11月頃からです。この時期私は何をしていたかの記憶があまりありません。それくらい企業対応が忙しかったです。

第一志望企業は、後期末試験後の2月14、15日で行った最終面談を通して確認しました。当然それまでに何度も個人面談をして志望企業の絞り込みをしてもらうようにしましたので、このときにはだいたいの学生の志望企業は決まっています。

3月に入ると(実際は2月18日からですが)、企業訪問を行いました。私がついて行くこともありましたが、学生が一人で行くこともありました。自分が受験する企業のイメージをかため、履歴書の記入等をスムーズにしてもらうようにしました。

これは就職希望者ほぼ全員に対して行いました。今年度はほとんどの学生が第1希望の企業から内定をいただいておりますが、この結果はこういった活動による準備を行った結果だと考えています。

履歴書などの書類作成は3月の末頃から行います。ほとんどの企業が採用試験をGW前に行うようになっており、書類提出はその1週間前程度になっているので、この時期にほとんどの学生が履歴書を書くようになります。ここでは一色先生を始め進路支援室のスタッフの多大なる協力により何とか乗り切れましたが、私一人では対応しきれなかったと思います。そういう意味では、自分の学科での進路支援担当の先生が誰なのかを良く確認しておくことをお勧めしておきます。

その後はあっという間にみんなの進路先が決まっていき、今に至っています。

進学に関しては、数名第一志望の大学に合格できなかったのですが、比較的良好な結果を得ています。また今年は特筆すべきこととして、京都大学経済学部合格した学生がいます。このように本校を卒業後も文系学科の編入の道も開かれています。自分は工学の方面に興味がないといっても、途中で進路変更するのではなく、最後まで本校でがんばってほしいと思います。

就職や進学に望む心得などは、他の学科の先生と共通する部分が多いので省略します。でも私のこの文から感じ取ってほしいのは、進路決定に費やすことのできる時間というものは実はあまりないんだ、ということです。高専生活5年間のうち、進路決定に費やす時期が半年ぐらいあると思いますが、それは4年生の時期にやってきます。3年生までは、そんなことは考えなくても良いだろうと、のんびりしていると、あっという間にその時期はやってきます。低学年の時から自分の進路についてよく考えて行動するようにしましょう。

就職 旭化成メディカル、大阪シーリング印刷、キヤノン、キヤノンマーケティングジャパン、コベルコ建機、JR西日本、ソニーE MCS湖西テック、ダイキン工業、帝人ファーマ、東洋自動機、トクヤマ、NOK、日立製作所、三菱化学エンジニアリング、三菱重工(3名)、三菱電機、矢崎総業

進学 徳山高専専攻科(10名)、岡山大学(2名)、九州工業大学、九州大学、金沢大学、京都大学、神戸大学 順不同

情報電子工学科

就職・進学状況

卒業生の力が生きた就職活動



5年担任 情報電子工学科
准教授 原田 徳彦

学生相談室が実施されている新入生アンケートに徳山高専の志望動機を問う項目がある。その回答で一番多い答えが“よいところに就職できる”である。では良い就職とは一体何だろう？私は自分が成長し続ける機会に出合える職業に就くことであると思う。高専生は5年間の専門教育を受けているため、技術者としての期待が大きい。だが、自分にどのような活躍の場があるか想像するのは難しいし、専門科目の難しさからすっかり自信をなくし技術職を敬遠する向きもある。実際に個人面談で希望職種を聞くと女子学生に技術職を敬遠する声が多かった。しかし、実際には就職活動に取り組む姿勢は女子学生が男子学生に比べより積極的に見えた。

そのきっかけとなったのは4年の学年終業日に開催した卒業生による職業紹介だった。10社からそれぞれの卒業生が来校し、就職希望の学生に向け自分の職業について語った。誰も学生するときには見せなかつただろう凛とした雰囲気を持っていた。自分が高専の卒業生であることから生まれるアイデンティティを感じた。高専の卒業生の多くは大学卒や大学院卒と同じ職場に就く。同期の中で一番若い分、職場でのノウハウの吸収力が一番早い。自分でお金を稼ぎながら自分を教育する機会を選んだのである。

卒業生の職業紹介を機に女子学生を中心とした不安な気持ちは一気に解消し、むしろ女子学生の積極的な空気がクラスにみなぎっていった。私は女子学生がクラスの雰囲気を決めると思う。就職希望者は26名、そのうちの半分13名が女子学生である。

4年の夏にインターンシップがある。参加は自由だが、就職する前に職場の雰囲気を下見できる絶好のチャンスである。求人のある会社の一覧からインターンシップの希望先を聞き、教務係の方に受け入れ可能かを問い合わせさせていただいた。結果として26名がインターンシップに行くことと

なった。中には2社に受け入れてもらう学生もいた。校外実習としては海外語学研修としてニュージーランドに行く学生もいた。

4年の後期からは進路支援室のセミナーに参加する学生も多くいた。SPIの模擬試験や履歴書の書き方や会社の方とのコミュニケーションの取り方、模擬面接など、とても有益な巣立ち支援プログラムである。会社への礼状の送付など自主的な就職活動も行えた。

5年になるやいなや内定を勝ち取った女子学生がいた。4月決戦の始まりである。学科の先生方にも面接の練習をお願いした。選考スケジュールの多くはゴールデンウィークの前と後ろのいずれかに設定された。4月が過ぎ、5月が過ぎると就職活動のあわただしさが消えた。多くの学生が第一志望の企業から内定をもらった。不合格となった学生にはより自分に合った企業を選択するように来校のあった企業などいろいろ紹介した。求人案内のための企業からの来校数はのべ128回に上った。求人の総数は500社を超えた。結果として全ての学生が希望する就職先への内定をもらうことができた。インターンシップでお世話になった会社に内定が決まった学生は4名である。

さて、進学の希望者は17名である。そのうち10名が専攻科へ入学し、5名が大学に編入学する予定である。また、1名が専門学校、もう1名が進路変更のための大学受験を考えている。

自分の視野を広げたい学生には大学編入を、研究室に残って専門を極めたい学生には専攻科がお勧めだ。専攻科では長期インターンシップも魅力の一つである。さらに大学院に進学すれば研究・開発職などへの職種の選択肢が広がるメリットがある。

就職活動について卒業生の力が生きるという話をしたが、進学した卒業生からもいろいろお話を聞く機会があればと思う。進学の面でも同様により動機づけが行えると思う。

就職 旭化成ケミカルズ、アトラス情報サービス(2名)、エヌアイ情報システム、NTTコミュニケーションズ、NTTネオメイト、オプティマ、オルガン、経済産業省、国際ソフトウェア、五島学習教室、コバルトマテリアル徳山、コベルシステム、サンテクノ、新日鐵住金ステンレス、ストロベリーメディアアーツ、ソニーEMCS 木更津テック、ダイキン工業、ネットワンシステムズ、日立情報制御ソリューションズ、富士通アドバンスソリューションズ、富士通九州システムエンジニアリング、富士通中国システムズ、安川情報システム、リコー販売、リョーセンエンジニアズ

進学 徳山高専専攻科(10名)、筑波大学、千葉大学、電気通信大学、広島大学(2名)、K-TWO
順不同

土木建築工学科

就職・進学状況

努力は人を裏切らない



5年担任 土木建築工学科
准教授 渡辺 勝利

本年度の土木建築工学科5年生の進路状況は、45名の学生のうち、就職が16名、進学が27名、進路未定者1名となっています(休学者1名、1月10日現在)。それぞれの内訳としては、就職では、民間企業が13名、公務員が3名、進学では、専攻科が22名、大学進学が5名となっています。

民間就職では、建設業以外の職種を含む約200社から求人をしていただきました。民間就職を希望した学生の大部分は、建設・建築関係の企業に内定しています。バブル崩壊後の公共投資の減少により建設不況は続いています。建築構造物の耐震補強やリフォーム、土木構造物のメンテナンスといった仕事が増加しており、技術の伝承、人材確保のために求人は継続しています。また、製造業における建築・土木部門の求人数は多くはありませんが定期的に採用されています。民間企業就職を進路選択した場合、自分はどんな仕事をしたのか、具体的にどの企業を選ぶかが、重要な問題となります。本年度、民間就職を希望した学生は、例年同様、担任との面談や求人票を回覧するなどして、少しずつ準備を進めました。また、積極的に企業訪問し、企業先での人事の方や卒業生OBの話聞いて、より真剣に就職活動を考え始めました。受験する企業が決まると履歴書作成に頭を悩ませ、面接練習を何度も繰り返しながら、採用試験前日まで頑張る姿が見られました。試験の結果、1社目で内定を頂いた学生、涙を飲んだ学生と様々でしたが、いずれの学生も懸命に努力し、それによって人間的なたくましさが増したように感じました。

公務員では、国家Ⅱ種に1名、市役所に2名が合格しています。公務員希望者は、不況を反映して年々増加しており、競争も激しくなっています。選抜試験も多いところでは三次試験まで行う機関もあり、受験者の学力や人間性が厳しく試されます。また、面接試験は、学科試験と同じくらい重視されています。「なぜ公務員になりたいのか」、

「公務員になって何をしたいのか」等を明確に答えられることが求められます。また、学生時代に何かに打ち込んだ経験など、自分をしっかりアピールできるものを持つことも大切です。本年度、公務員を目指した学生の中には、公務員学校で実力を磨いた人もいました。また、授業の休み時間にも、ひたすら参考書に目を通し、卒業研究の最中も片手でパソコンのキーボードをたたきながら、もう片方の手で公務員の参考書のページをめくって勉強を続けるなど、合格のために懸命に努力する姿が随所に見られました。

進学については、昨年度も進学者がクラスのほぼ半数を占めていましたが、今年度はそれを上回っています。また、専攻科へ進学する学生が多く、クラスの約半数を占めていることが注目されます。専攻科の進学には、推薦と学力の2つの選抜方法がありますが、本クラスの22名の専攻科進学者の内21名が推薦選抜試験を受けました。推薦選抜試験では、卒業研究の内容とそれをどのように特別研究へと質的に高めていくかをプレゼンテーションし、教員からの厳しい質問を受けました。今年度の専攻科への進学率の高さは、本校専攻科教育の良さが学生に認識されたものと考えられます。大学進学では、推薦選抜を受けた学生が2名、学力選抜が3名でした。推薦選抜は大学ごとに基準が異なりますが、成績についてはクラスの上位にいることが求められます。学力選抜では、大学進学のために大好きなクラブ活動を中断して勉強に集中する学生や受験のために必要な専門技術を学外で修得した学生など、志望校へ合格するために真剣に努力する姿が印象的でした。

世界経済の悪化が日本にも波及し、昨年末からの景気の悪化に伴い、大企業の“派遣切り”、“内定取り消し”が横行し、社会問題となっています。今後の日本経済・社会の先行きは暗澹たるものであると予測されていますが、どのような状況が訪れようとも、この5年間、勉学、課外活動にしっかりと努力をしてきた皆さんには、その状況を打開していける底力が身につけていると信じています。

卒業される土木建築工学科5年生のみなさんへ Bon Voyage !

就職 岩国市、川岸工業、関東地方整備局、五洋建設、澤田建設、JR西日本、新笠戸ドック、竹中工務店、TOTOエンジニアリング(2名)、時森建設、西日本高速道路エンジニアリング、西松建設、広島市、前田道路、三菱重工業長崎

進学 徳山高専専攻科(22名)、九州大学、京都造形芸術大学、熊本大学、豊橋技術科学大学、長岡技術科学大学

順不同

機械制御工学専攻

就職・進学状況

就職・進学では専攻科生の
強みを生かそう



機械制御工学専攻幹事
機械電気工学科
助教 北村 健太郎

本年度の機械制御工学専攻の修了生は5名で、進路は就職3名、大学院進学2名となっています。就職は、地元企業に2名（日新製鋼、日立交通テクノロジー）、県外企業1名（三菱重工業）となっており、進学は、それぞれ九州大学と広島市立大学への進学となりました。年々、専攻科進学者の数が増えてきており、その進路も多様性を持ってきているように感じます。就職組に関しては、比較的早い時期から、業種などの希望を明確にしていたため、事前の企業調査等も順調に行い、皆、希望する企業に採用されることができました。進学組も、十分な試験対策により、2名とも無事に進学先を決めることができました。

ニュース等でも盛んに報道されていますが、世界的な不況の波は、国内企業にも確実に影響を与えており、来年度の求人にもどの程度の影響が出るかは現在のところ未知数です。しかし、高専専攻科生は企業から高い評価を受けていますので、自分の希望職種を明確にして、早めに就職対策をスタートすることが重要だと思います。

一方で、大学院は高専専攻科対象の推薦制度を持つ大学院が増え、ここ数年、進学希望者には有利な状況になってきています。進学先の検討には、大学名だけでなく、自分のやりたい研究がどの研究室で出来るのか、ということまで具体的に調べておくことをお勧めします。

就職・進学いずれの進路を目指す場合でも、専攻科修了は皆さんのキャリアに関する大きな節目ですので、(1) 自己分析 (2) 企業（大学院）研究の2点を出来るだけ早めに行っておくことが肝要だと思います。

就職 日新製鋼、日立交通テクノロジー、三菱重工業

進学 九州大学大学院、広島市立大学大学院 順不同

情報電子工学専攻

就職・進学状況

早めの行動を！



情報電子工学専攻幹事
情報電子工学科
助教 柳澤 秀明

平成20年度の情報電子工学専攻2年生は2名でした。1名は、九州工業大学大学院への進学が決まり、もう一人は、株式会社エイムに就職が決まりました。

就職の内定が決まったのは、1月中旬でした。就職先がなかなか決まらなかった理由としては、不況の影響というよりも、自分の進路をなかなか決められなかったために、就職活動の開始が遅れたことが最大の理由と考えられます。

就職活動を早めに開始するためには、自分がどんな分野に興味があり、どのような仕事をしていきたいかを専攻科を志す時点で慎重に考えておく必要があると思います。

漠然と進学して、ただ講義を受けるのではなく、将来、どのような仕事をしたいかを考え、どのような事を学ぶべきなのかを知ることから始めてください。

まだ、1月ですが専攻科1年生を対象とした平成22年度採用の求人票が既に届き始め、早い学生は、就職活動を開始しています。早めの行動が必要です。

一方、進学についても早めの行動が必要になります。ここ数年、大学院への進学率が上がっていますが、大学院へ進学する場合、専攻科に進んでから自分の興味のある大学院をさがし、研究室訪問などを行って進路を決めることとなります。

大学院によって試験時期や問題形式がさまざまです。早めに情報収集を行い、対策を立てる必要があります。

就職にしても、進学にしても早めの行動が必要です！

就職 エイム

進学 九州工業大学大学院

環境建設工学専攻

就職・進学状況

2年間の計画を立て、
綿密に実行



環境建設工学専攻幹事
土木建築工学科
准教授 熊野 稔

2008年度環境建設工学専攻の状況は、修了生9名のうち、国立大学大学院進学3名、山口県上級職(土木・建築職)2名、民間就職4名(内女子2名)です。毎年、コンスタントに2級建築士合格者がおります。進路は例年と大きな変化はありませんが、各自が自分の希望された進路目標の計画と実現を果たされ、ありがたく思います。

世界的金融恐慌の折、建設不動産業種は厳しい採用状況といわれながらも、本校の環境建設工学専攻は名の通った大手企業に就職内定し、公務員上級職への合格内定、国立大学大学院への推薦入学を加えた3つのコースは定番の進路となりました。

環境建設工学は技術職公務員の採用が最も多い学科であり、公務員希望の学生は、早くから公務員試験に対応した準備と学習をして建築・土木職双方の上級職の栄冠を勝ち取りました。

専攻科からの国立大学大学院への進路は拡充方向にあり、推薦制度を実施する大学院も増えており、最終学歴を大学院にしたい学生にとって専攻科・大学院コースは有利です。

JABEEが認定されている専攻科修了には、科目単位取得はもちろんのことTOEICや国家資格、学会発表などの修了要件をクリアせねばなりません。そして研究室での特別研究に没頭して2年間の学習・研究生活を送るわけです。限られた時間内に多くのメニューを消化して希望した進路を実現するためには、2年間の綿密な計画と実行に向けての的確なマネジメントが求められます。

私が薦めている戦略は、1年生のときに出来るだけ修了要件をクリアしておき、2年次には特別研究と進路対策に没頭できる状況を作っておくことです。そのために日々のスケジュール管理と知識・情報を記録する管理、研究のアイデアを考察・記録する管理の3つの生活管理が必要です。来年

度は環境建設工学専攻に22人のこれまでに最も多い入学者を迎え、学生と共に他校に誇れる専攻科ブランドを築きたいものです。

就職 前田道路(2名)、山口県(2名)、読売旅行、若築建設

進学 愛媛大学大学院、京都工芸繊維大学大学院、熊本大学大学院
順不同



□ 就職・進学試験体験記 □

自分の意見を持つ

機械電気工学科5年
河村 康彦



私が求人票から企業を選択し、次に行ったのは企業についての知識を深めるための企業訪問でした。企業の説明は熱心に聞いていましたが、工場見学は職場の雰囲気を感じるという程度で考えていました。実際に見学中も工場内を眺めるだけで、機械や製品の大きさにただ圧倒されていました。そのため、見学させていただいた直後、案内をしていただいた方に感想を求められ、返事が遅れてしまいました。面接ではなくても企業を訪問しただけで、意見を求められるので気を抜けません。

さらに、自己紹介書や面接試験では、「なぜ徳山高専を選んだのか」、「5年間を振り返ってどうだったか」という質問がありました。質問からは「明確な動機をもって行動していること」、「あらゆることに自分なりの考えを持っていること」を

求められていると感じました。私たちが課題に取り組む際には、その結果から問題点を探し、動機を持って改善することが必要です。この重要な作業をするためには、意見を持って行動していることが大切になるのです。

しかし、私のしたことすべてに明確な動機があり、したことすべてから何かを学んだわけではありませんでした。「察に入らなかった理由」などの面接官の突然の質問には、自らあまり考えずに回答をしましたが、「部活動から学んだこと」など一般的な質問の回答は、面接を受けるにあたって、多くの時間をかけて考えていました。質問の回答を考えるのにこれだけ多くの時間がかかったのは、私が常日頃からあまり考えを持たずに行動していたからです。

就職活動をする上で、コミュニケーション能力を発揮するには、相手に伝える以前に自分の明確な考えを持つことが必要です。これから就職活動をする皆さんは、就職活動の練習として、日常生活から思考し自分の意見を持つようにすれば就職活動も問題なく乗り越えられると思います。

三菱重工業株式会社 広島製作所

仲間に支えられた 編入試験勉強

機械電気工学科5年
細田 将吾



私は高専入学当初から大学編入を考えていました。

しかしながら、勉強、部活動、学生会活動、遊びと高専生活を存分に楽しんだ私が、本格的に編入試験対策の勉強を開始したのは4年の春休みからでした。

ここから不安に押しつぶされそうになりながら猛勉強しました。苦勞したのは、勉強方法です。3年の頃から少しずつ集めていた情報を元に、研究内容・編入後の単位認定・試験日を考慮して、2つの大学を受験することは決めていたのですが、過去に機械電気工学科で同じ大学への編入の実績がなかったため、その情報収集に困りました。結局、過去問から傾向を読みとり、インターネットの掲示板に載っている情報や、mixiで同じ大学に合格された他高専の先輩や友人にアドバ

イスをいただき、自分の勉強方法を確立させていきました。

編入試験勉強を振り返り、共に編入試験を受ける友人がいてくれたから、私は最後まで諦めずに勉強できたのだと思います。互いに協力し、いい刺激をもらいながら、一緒に勉強をした友人に、本当に感謝しています。

編入を考えている後輩のみなさん、編入は孤独で狭き門です。その環境の中、いかに早い時期から勉強を始めるか、どれだけ濃密な勉強をするかが鍵になると思います。情報が少ないため、大学編入に不安を抱いている人も多いと思いますが、まずは、編入試験を経験した先輩方に相談していただくことをお勧めします。経験談が一番参考になります。

後輩のみなさん、今その時期に大いに悩み、明確な目標を定め、努力してください。努力しても結果がついてこない時もあります。ただ、努力しないと結果はついてきません。そして、忙しく、苦しい時こそ高専生活を楽しみましょう。

最後になりましたが、ご指導して下さった先生方、本当にありがとうございました。神戸大学

□ 就職・進学試験体験記 □

就職活動で 学んだこと

情報電子工学科5年
山崎 康太



就職か進学かあまり深く考えていない。
就職なんてどうにかなるでしょ。

こんな具合に今はまだ、就職に対して真剣に考えていない人が多いと思います。自分は就活直前までそうでした。しかし、就職活動を通して感じたことは、世の中そんな甘くないということです。

自分は就職活動を通して多くのことを学び、実感させられました。まずは、社会勉強。これが本当に重要です。早いうちからアルバイト(もちろん長期休みの)、部活動、ボランティア、何でもいいからやってみて、それを継続してやり遂げる。この経験が人間的にも、履歴書にも、面接にも、とても大きな武器となります。また、間違いなく会社が最重要視するところです。自分はこれが凄く中途半端で、本当に苦労しました。

そして、自分のやりたい仕事を見極める。人間興味とやる気がないと、何もできません。自分はそれを見極めるためにインターンシップに行きました。結局、違う仕事を選びましたが、その判断はとても良かったと思っています。見極める時は実際にその仕事を肌で体感することが最良です。

正直、SPIや面接練習は就職が近づけば自然に取り掛かり始めます。会社の勉強は就職が決まれば嫌でもさせられます。今の自分がそうです。ただ、資格は取れるだけ取っておきましょう。有利である以上に、自分のためになります。

後輩のみなさん。スタートラインは人それぞれですが、まずは何事にもチャレンジして、自分の誇れることを持ってください。そして、自分のやりたい仕事を見つけ、見極めてください。もし、もう見極めていいるなら、それは素晴らしい。会社のことを調べたり、資格を取ったりしていきましょう。まずは、最初の1歩。それが1番重要です。

最後に、学生生活は想像以上に短いです。謳歌しまくりましょう！

ネットワンシステムズ株式会社

後輩へのアドバイス

情報電子工学科5年
坂本 侑一郎



皆さん自分の進路について意識していますか。できるなら、目標(具体的な進学先など)は早めに決めて、それに向かって上手に計画を立てるのが良いかと思います。

行きたい大学が決まれば、まずは受ける大学の過去問題を解いてみることをお勧めします。このことで、大体の出題傾向と、現段階での自分の実力が分かると思います。また、過去に受験をした先輩方の受験報告の資料も多く保管されているので目を通しておくといいと思います。

私は筑波大学を含めて3校を受験しました。それぞれの学校で試験の形式は異なりますが、共通して言えることは基礎学力が最も重要であるということです。というのは、数学や物理では、基礎的な問題から誘導して応用問題を解かせるという形式が多いからです。逆に、初めの問題が解

ければ、後の問題も比較的楽に解くことができます。専門科目については、ほとんど基本的な事項しか問われないので、普段の授業を真面目に聞いていけば、十分対応できます。しかし、よりレベルの高い大学を目指すとき、数学・英語・物理では $\pm\alpha$ の勉強が必要になってきます。図書館に問題集や参考書があるので活用しましょう。分からない問題は先生に聞けば一緒に考えてくれます。遠慮して一人で悩んでいても損なので、是非質問に行きましょう。

以上勉強についてのアドバイスでしたが少しは参考になったでしょうか。要するに、授業を真面目に受けて基礎を作っていれば、なんとかなるということです。他には、試験日が近づいてくるとホテルや新幹線のチケットの手配などもありますし、特に受験用の提出書類の記入には思いのほか神経を使うということも覚えておいてください。編入試験は大変ですが、いい経験になります。後輩のみなさんも頑張ってください。

筑波大学

□ 就職・進学試験体験記 □

就職活動を 振り返って

土木建築工学科5年
田中 美里



「あなたの夢はなんですか？」この質問は、最終面接での最後の質問でした。

私が本格的に就職活動を開始したのは、4年の2月からです。就職活動を通して一番大変だったことは、履歴書の作成でした。なぜなら自分の長所・短所や、高専生活4年間で学んだこと、体験したこと、どのように苦難を乗り越え成長してきたかを会社にアピールして、いかに自分を売り込むかを考えなければならないからです。そこで、履歴書を書く上で、自分の性格を知ってもらうには、あるストーリーを通して説明すると理解してもらいやすいと、進路支援室で学びました。幸い、私はたくさんのことを学校で経験させていただき、その経験が自分の自信へと繋がったのでスト

ーリーとして自分のことをアピールできたと思います。どうしても自分では自分の性格がわからないという人は、友達や先生に「私ってどんな人？」と聞く方法もあります。私たちも友達同士、お互いに意見を言い合って、とても参考になりました。

面接は、履歴書でしっかりと自分の意見を固めていたので、比較的リラックスして臨むことができました。本番でも、伝えたい事は言えましたし、今振り返ると楽しかったです。

就職を希望する人は、4年生になっていざ就職活動開始という時に、「高専生活で一つも印象に残る活動をしてない！」となる前に、学生のうちでしか体験できないことに挑戦してみることをお勧めします。自信を持って、話せる体験なら何でもいいのです。そうすれば、将来やりたいことや「夢」がはっきりすると思います。

竹中工務店

大学編入試験に ついて

土木建築工学科5年
佐々木 健太



皆さんは自分の進路についてもう考えているでしょうか。私は高専に入学した時から大学への進学を意識していて、3年生の頃には、もう進路は大学進学と決めていました。しかし、課題や部活動などが忙しく、受験勉強に取り掛かることができずして。本格的に勉強し始めたのは、4年生の春休みで試験日までもう半年もなく、遅いスタートとなってしまいました。

九州大学の編入試験は、私の場合、数学、英語、物理、専門科目の4教科と面接がありました。とりあえず私は過去問を10年分確保していたので、まずそれらに目を通し、各教科の範囲や傾向、難易度を把握しました。数学は範囲がとても広く、私たちの学科では勉強しない応用数学や複素

関数なども含まれていたもので、勉強するのがとても大変でした。英語は単語力と長文読解力が身につくように勉強しました。物理は苦手だったのであまり勉強しませんでした。専門科目は過去問がないので、九州大学に編入した高専生に範囲や出題形式などを聞いて勉強しました。実際の試験では、4教科とも何とかできました。面接に関しては志望動機しか考えていませんでしたが、和やかな雰囲気だったので、他の質問に対しても臨機応変に対応することができました。

進学したい人は、過去問やインターネットの掲示板などから情報を集め、早めに勉強に取り掛かりましょう。どの教科も大事ですが、数学と英語は集中的に取り組んだほうが良いと思います。また、私は問題集や単語帳などは自分で購入しましたが、高専の図書館にも良いものがあると思うので、頑張って探して勉強に大いに活用してください。大学編入は大変ですが、悔いの残らないように頑張って勉強してください。九州大学

□ 就職・進学試験体験記 □

大学院進学へ

機械制御工学専攻2年
大野 充孝



私が大学院を意識したのは、本科4年生の頃からでした。ただ、当時は『進学してから何を研究するか』ということにまだ迷いがあり、その状態で大学編入することにためらいがあったので、専攻科に残って大学院を目指すことにしました。そして専攻科での特別研究の内容に興味を持ち（私の場合、都合により本科の時とは違う研究室に移ったので、この研究について詳しく知ったのは専攻科に進学してからでした）、大学院でもそれに近い研究をしたいと思うようになりました。

さて、専攻科も1年の後期にさしかかり、いよいよ大学院を選ぶことになりました。大学院を選ぶにあたって、私はまず、自身の研究の内容に近い研究を行っている大学の研究室を、インターネットなどで調べました。と同時に、それだけでは進学先選択の視野が狭まると思い、特別研究と直

接は関係なくても、興味を惹かれる内容の研究を行っている研究室についても調べました。そうしてピックアップした研究室はいくつかあったのですが、研究室訪問での印象など、いろいろな条件も加味して、九州大学総合理工学府の物質理工学専攻に進学することを決めました。

とここまで、私の大学院への道のりを述べてきたわけですが、ここで、大学院進学を考えている人にアドバイスを送りたいと思います。それは、『準備は早めに』ということです。進学先を決定するまでには、研究室調査はもちろん、研究室訪問や、進学条件のクリアなど、やるべきことがある以上によくあります。出来る準備は早めに行っておきましょう。ただし、最後の最後、進学先の決定については、最後までじっくりと悩んでみてください。私のように、何かのきっかけで新しい目標が見つかるということもありますから。

最後になりますが、皆さんが最良の道を進めることを願っています。

九州大学総合理工学府 物質理工学専攻

就活をして

情報電子工学専攻2年
秋本 晋吾



私は、株式会社エイムに就職が決まりました。まだどこで働くかは決まっていますが、社会人生活はもう目の前です。

就職しようと思ったのは、進学という2文字にあまり魅力を感じなかったからです。『大学院に行く理由』これが全くなかった私は自動的に就職の道が決まったようなものでした。しかし、私には就職意識というものがなく、面接も上の空。そのような状態で企業を受ける日々が続いていました。2008年の急速な景気低迷が起こった時も未だ就職先は決まっておらず、急がねばと気ばかり

が焦っていました。凄い危機感に苛まれました。そして、インターンシップでお世話になったエイムを受験しました。

ここまで決定が遅れた理由は、上にあげた通り危機意識のなさに尽きると思います。そのような私であっても就職先を決めることができました。

何がしたいのか、それが決まらない人も少なからずいると思います。私もその一人です。決まらないことを無理に決めることは強要できません。ですが、お金を稼ぎたい、まだ学生を続けていたい、そんな理由で構わないので何か理由をつけて就職・進学を決めてみてください。それでも決まらなければ、両方という欲張りな選択でも構いません。とにかく、行動してみてください。

株式会社エイム

□ 就職・進学試験体験記 □

山口県庁

環境建設工学専攻2年
相川 和也



私は、山口県庁に就職が決まりました。この春から山口県職員となり、働き始めます。

私の就職活動は、専攻科1年の2月から始まりました。就職活動とは言っても、まずは、県職員採用1次試験対策の勉強です。文章理解や判断推理などの教養問題と、専門知識が必要な専門問題があるので、その勉強量はとても多く、大変でした。山口県の採用試験は6月末なので、2月に始めたのでは遅く、毎日深夜まで勉強をしていました。

そして、1次試験が終わると、2次試験対策です。2次試験の内容は、論文試験と面接・集団討論です。1次試験が終わってからの約1ヶ月間で、山口県についての知識を深め、論文を何度も書いたり、面接練習をしたりしました。

2次試験が終わってから、約1ヶ月で合格発表

です。山口県の採用試験は、6月末から8月末までの約2ヶ月間で全てが終わります。

アドバイスとしては、「早め早めの準備」に尽きます。1次試験対策の勉強は、夏休みごろから始めた方が良いと思います。この勉強は、量が多いため、いくらやっても安心感がありません。私は、あれをやってない、これをやってないという、不安だらけの状態です。2次試験対策では、徹夜で新聞を読むということもしました。図書館にも新聞はあるので、こまめに見ておけばよかったです。

そして、私の場合は、この試験の間に、市役所の試験と、2級建築士の試験が入ったため、夏休みはありませんでした。建築を専攻する学生は、インターンシップはありますが、専攻科1年のうちに2級建築士を取っておくことをお勧めします。

最後になりますが、もし、公務員試験について聞きたいことがある人がいれば、遠慮なく連絡してください。

山口県庁



卒業生だより

卒業から4年・・・

機械電気工学科 第27期卒
NOK株式会社
角田 俊介

皆さん、こんにちは。

私は2005年に徳山高専の機械電気工学科を卒業しました。在学中は、多くの友人や先生方に恵まれ、また学生会長の機会を与えていただき、非常に有意義に過ごす事ができました。とにかく学生生活を楽しむ事ばかり考え、かえりみると音楽をはじめとした趣味に没頭する毎日だったように思います。おかげで卒業研究では、非常に焦りましたが、これも良い思い出となっています。

高専生活を共にした友人達とは今でも頻繁に会って、お酒を交わしながらお互いの近況を語っています。

高専時代は非常に多くの人とかかわることができ、とても良い経験を得ることができました。そのため、就職の道を選ぶ際、人と直接係る仕事に就けたらと考え、営業配属希望で現在の会社、NOK(株)に就職しました。

皆さんはオイルシールをご存知ですか？その名の通りオイル（油）をシール（封じる）機能部品で、水や潤滑油が機能部分より漏れるのを防止する役目を持ったゴム部品です。身近なところでは自動車や航空機、家電、水道等に使用されており、NOKはこのオイルシールが国内・世界シェアNo.1の会社です。

オイルシールの他にも、フレキシブルサーキットといって、携帯電話の折り畳みを可能にする柔軟回路のシェアも国内・世界トップの会社です。

前置きが長くなりましたが、実は私は今、営業もオイルシールもフレキシブルサーキットも担当していません。現在は、神奈川県でPCやカーナビ等に使用されるハードディスクドライブ内のプラスチック部品の品質保証を担当しています。

私が担当しているアイテムの多くは国内に生産の拠点を持っておらず、そのほとんどを東南ア

ジアの工場で生産しています。その為、入社して初めての出張はパスポートの更新でした。

数ヶ月に一度のペースでタイをはじめとした海外の生産拠点へ出張し、現地のスタッフと協働して製品の品質の維持・向上に取り組んでいます。ハードディスクドライブの部品はクリーンリネスが保たれた環境での生産が求められるほか、顧客からの要求品質も非常にシビアで、苦労の毎日ですが、自分の携わった製品が市場に出回る事に大きな楽しみや喜びを感じています。おそらくみなさんの使われているパソコンやカーナビのハードディスクにも私たちが生産した部品が使われている事と思います。

振り返ると、正直なところまさか学生時代に語学が不達者だった自分が、これほどまでに海外に密接に関わるとは思いもしませんでした。頻繁に海外とやりとりをする為、語学力も多少は上達しましたし、旅行という新しい趣味にも出会うことができました。ここ数年間は春や夏の長期連休の間に海外によく旅行しています。

ただ、こういったコミュニケーションを取ることができるようになったのも、高専で過ごした5年間のおかげだと思っています。後輩のみなさんも充実した高専生活を楽しんでください。

特に、人数は限られているかもしれませんが、学生会をはじめとした活動はきっと良い経験や思い出になるとと思いますので、是非参加してみてください。



駐在先福島県にて。写真右上が角田

卒業生だより

後輩へのメッセージ

情報電子工学科 第28期卒

情報電子工学専攻 第12期修了

筑波大学大学院 システム情報工学研究科1年次

川崎 仁

○はじめに

私は、徳山高専卒業後に専攻科に進み、08年の4月に大学院に進学しました。高専ではPICマイコンのシミュレータの研究を行っていました。現在、大学院では仮想マシンモニタ(VMM)に関する研究に取り組んでいます。



まだ修了してあまり時間も経っていない青二才ではありますが、よろしく願います。本稿では、専攻科の生活について書き、その後に後輩の皆さんにエールを送りたいと思います。

○専攻科生活

専攻科では、本科に比べて自由な時間ができるため、時間管理の能力が必要です。決して私の様に時間にルーズにはならないでください。特に、専攻科生の重要な活動である研究の時間をしっかり確保する必要があります。

私は授業以外の時間は、所属する研究室と学生研究室、そしてIE電算機室のどこかにいました。電算機室には、もう1人の情報電子工学専攻の級友もよく居て、先生方とも一緒によく話をしていました。落ち込んでいたときには、とても助けられました。

○修了要件

外部での研究発表とインターンシップ、TOEIC、学位認定の4つをクリアする必要がありました。一番思い出深いのは、インターンシップです。受け入れ先では、とても良くしていただきました。この経験が組み込み分野のプラットフォームに興味を持つきっかけになりました。

○積極的にいこう

私は苦手でも今も努力しているのですが、積極性

はとても重要だと思います。ぜひ専攻科生には(もちろん本科生でも)学内だけでなく、学外にもどんどん交流の輪を広げて行ってほしいです。

高専間の交流イベントに参加することもできます(大島丸は楽しかったです)。また、昨年从高専カンファレンスという集まりが何度か開かれているようですが、こうしたコミュニティに参加することもできると思います。周りの専攻科生の中には、学会発表に何度も参加した人やフットサルチームに所属していた人、海外の旅に出かけた人などもいました。

さらに、腕に自身のある方は、自作のプログラムを公開したり、オープンソースに参加したりできるかもしれません。将来のコミッターやカーネルハッカーを目指すのはどうでしょうか?

高専生や専攻科生の技術力は高いと言われます。しかし、さらに話を聞くと、技術力だけでは不十分でコミュニケーション力などの $+α$ が求められるようです。そういった $+α$ を身に着けるには、色々な人と交流を深めることも近道ではないかと思います。ぜひ、積極的に取り組んでいてください。

○先輩を活用する

私の同級生が携わっている分野は、アプリケーション層から物理層まで、Webから組み込みまで、また技術とは違う分野まで幅広くあります(同窓会で会うたびに、頑張ろうと励まされます)。先輩方を含めれば、分野はさらに広いと言えます。

それで、こうした卒業生のネットワークをより活用できるしくみがあると良いのではないかと考えています。学生からも積極的に、自分の興味のある分野に先輩がいないかどうか、先生方に尋ねてみられると良いかもしれません。

○おわりに

最後になりますが、後輩の皆さん。高専での仲間を大事にしてください。支え合える、そして切磋琢磨できる関係を築いて行ってください。専攻科の皆さん、高専を引っ張っていく存在として、学外にも積極的に進んで行ってください。

色々と偉そうなことを書いてしまいましたが、私も皆さんと切磋琢磨できるようにこれからも頑張っていきます。有難うございました。

卒業生だより

行政マンとしての28年間 ～市、職員に求められるもの～

土木建築工学科 第1期卒
周南市役所都市開発部都市計画課
長 廣 悦伸

私は、昭和54年3月に土木建築工学科を卒業し、大学生活を経て昭和56年4月に徳山市役所に土木技術職員として入所しました。その後、平成15年4月に2市2町の合併により、周南市役所と名称は変わりましたが、地元で28年間、行政に携わってきました。その間、色々な部署に配属されました。最初は監理課で宅地造成許可申請書の審査を担当し、次は農林課で、農道、圃場整備の設計、現場監督を担当し、その後、道路災害復旧、下水管渠の整備、防波堤などの漁港施設の整備、橋梁新設と経て7年前より都市計画行政を担当しています。少子高齢化、人口減少社会を迎え、地球環境意識の高まるなか、持続可能なまちづくりとは何か？毎日答えを探しています。

さて、この間、社会経済情勢の変化により、職員数削減のほか、職員の責務、市の役割も大きく変わりました。

まず、技術職員に求められることは、市民への説明責任です。財政難の折、費用対効果の高い施策の展開のためには、例えば、道路を建設する必要性を理解してもらうには、専門知識が必要です。また、多様化する市民のニーズに答えるためにも、施工業者と対等であるためにも常に新しい技術の習得は必要です。資格も求められるようになり、土木技術職員の多くは1級土木施工管理技士の資格を取得しています。私も数年前に40歳を超えてから取得しました。次は技術士にチャレンジしようと考えています。(取得する前に退職と周りには言われていますが、...)

次に市の役割ですが、特にまちづくりの分野では大きく変貌しております。それは市民参画によるまちづくりです。より暮らしやすいまちをつくるには、市民の皆さんと市が、お互いに持っている知識や経験を出し合い、ともに考え、力を合わせてまちづくりを進めていくことが何より大切です。

そのためには、市が市民に市政に関する情報を積極的に提供するとともに、市民参画の機会を積極的に設け、意向を的確に把握し、施策に反映させることが必要です。

今、計画策定時には、ワークショップという手法で市民の皆さんに参加してもらっています。

このほかに、アンケートは勿論、市が諮問をすることにより市民に意見を求める方法として審議会があります。この審議会は学識経験者と市民で構成され、徳山高専の先生には必ずと言っていいほど委員になって頂いています。工藤先生、田村先生にはいつもご尽力を頂いています。また、市民と行政が同じテーブルで意見交換や協議をおこなうCAA事業も展開しており、「周南市の景観をかんがえてみよう」では橋本先生、熊野先生に大変お世話になりました。今後とも宜しくお願いします。

このように、都市計画課では市民参画を積極的に推進しております。市民にもまちづくりに参加したい、自分たちのまちは自分たちで守るという、意欲のある人も見かけるようになりました。今後は、依然として多い「沈黙の大衆」いわゆるサイレント・マジョリティをどう参加させていくかが今後の課題です。

入所した頃は、事業を実施するときは市が計画し、地元説明会で報告、市と市民との思いに大きなギャップがあると感じるということがしばしばありました。そのような時代は終焉し、今後は益々、市民協働でつくるまちづくりが主流となるでしょう。そのためには専門知識のほかに、企画力や強いリーダーシップが必要となることは言うまでもありません。役所生活あと10年、精一杯頑張りたいと思っています。

周南市役所にも徳山高専のOBが50名近くいます。都市計画課7名のうち3名が土木建築工学科の卒業生です。



■ 退職者あいさつ ■

退職に際して

徳山高専発足から、今年の6月で35年が経ちます。昭和49年（1974年）の仮校舎時代から関わってきました教員は、もう私と数学の原田幸雄先生だけとなりました。あのころの思い出は数多くありますが、ひとつだけ記すとすれば、やはり、旧加見小学校を利用した学寮でしょうか。教室に畳を敷いた居室はまさに水滸伝の梁山泊を想いおこさせる運命共同体そのものだったし、学習室での学生諸君の雰囲気も、自分たちの未来を信じていることができるという確信に満ちていました。1期生という誇りがどこかにあり、彼らからはそのオーラがただよっていたように思えるのです。寮務主事、主事補（小生）の2人体制でしたが、十数人の教官、事務官が一体となって寮をバックアップしてくれました。あのころの学校のきらきらした思い出は、徳山高専10年史にも記されていますので、機会があれば図書館などでご覧になっていただきたいと思います。徳山高専のルーツがわかります。

初代校長城 温三先生が示された教育目標は、「信頼される人物になること」「技術を愛する人物になること」でした。この目標はシンプルに表現されていますが、深い意味があり、現在、本校で学んでいる諸君たちの、目指している「世界に通用する実践力のある開発型技術者」は、この二つの目標の延長上にあってしかるべきと思っています。

35年間、数学というある意味で単純な科目に関わってきました。結局私は何が言いたかったのかを考えてみると、それは、一言で言えば、「論理的」に物事を考えていく能力を身につけてもらいたいということに尽きるのではないかと思います。自分自身、冷静に世の中を見ていくことすらできていないのにおこがましい話ですが、一教



一般科目
教授 秋吉 康光

学教師のひそかな願いのようなものです。世の中を渡っていくためには、論理的に進めていくだけで解決できないことがあることは当然ですが、理系を学んで世の中に出て行く君たちの人生にきつと役立つものと信じています。

管理棟、専門棟と教員室を十回近く移動しましたが、いつも持ち歩いた一枚の新聞写真があります。1968年アポロ8号が、月面から撮った「地球の出」の写真です。地球儀や世界地図を眺めるのとは違ったりアルな生き物としての丸い地球を見ながら、人間社会の美しさも醜悪さもその上に乗っかっていることを思い、いく度も励まされてきました。しかし、この星自体の未来が、はじめてこの写真を見た頃には考えもしなかったほど深刻な状況になってきました。「地球にやさしく」という言葉には、人間の驕りさえ感じられます。人類はみずから開いてきた科学技術の道を今一度謙虚に省みる必要があるのかもしれない。そして、それには君たち若い諸君の想像力と叡智に期待するほかありません。

最後になりましたが、約35年の長きに渡りお世話になりました本校教職員のみなさま方に、深く感謝いたします。ありがとうございました。



NASA ホームページ
<http://www.nasa.gov/multimedia/imagegallery/>より

徳山高専の16年間の思い出



機械電気工学科
教授 藤満 達朗

私がここに赴任してから早いもので、16年が経ちました。振り返ってみると、最初の年が一番懐かしく思い出されます。徳地の1年生の合宿研修に引率したときの思い出、また、研究会への出席・発表の自由さなどこの頃の本校は学生も教職員も少しゆとりが有った時代であったように思います。現在は、年間予算も出張費を含めるとこの頃の五分の一以下となりかつ出張する際の手続きの煩雑さが伴って研究会や研究発表への出席すら、し難く煩わしくなっている現状下にあるように思います。また、他高専の研究室への予算配分額の半分以下ともきいています。さらに、機械工場への予算配分の少なさなど、沢山あります。このような状況で本校が掲げている自立性のある実践教育が可能であろうかはなほだ疑問ですが、現教職員にはこの目標達成のために頑張ってもらいたいと思います。

ところで、『親の後ろ姿を見て子供は育つ』と言う諺がありますがこれと同様に『学生は先生の後ろ姿を見て育つ』と思います。従って、学生の手本とならなければならないと思うと責任の重大さを感じます。私の少ない経験からするとよく当たっている諺だと思えます。しかし、身近な事例ではされたから同様なことをする人とそうでない人とに分かれています。善きことは前者で、悪しきことは後者であって欲しいのですが、全て前者である事例が多いようです。私自身がこのような多い事例にはならないように注意しなければならないと努力してきたつもりです。さて、話をもとに戻して、自由でのびのびとした学生を育ててはいけないと思うのに、型に填めた学生を育てているような気がしてなりません。型どおりになっていけば（揃っていけば？）よいという概念が通用すれば、人とのコミュニケーションがとり難くなってしまふような気がするからです。つまり型どおりに揃えればよいことになり、中身

より体裁を揃えることに重きが置かれることになりそうです。例としてはよくないかも知れませんが、単位の出し方が型どおりに揃っていけば単位を出さなければならなくなるのではと危惧されます。中身より、体裁を整える方が重視されることにならないかと心配するからです。この中身の議論の過程で学生と教官との間のコミュニケーションがとれ、人格の形成に役立っていたと思うからです。ところで、私の10年以上の課題である『高専生と大学生の違い』がまだ解決していません。というのは大学卒業後の卒研生と高専の卒研生の付き合い方がまるで違います。前者より後者の方が密接に付き合ってきたと思うのに結果は逆です。大学生は世話になったという思いがあるのに対して高専生は卒業してしまえばそれまでとされているのか（？）疑問です。それでも、赴任したときの数年間の1年生に私の夢を話してそれを実現してくれた学生が数名居ります。このことが、私が本高専にきて一番嬉しかったことです。まだまだ、他にも嬉しかったことや辛いことがありましたが、よき学生達や教職員に恵まれ、大過なく過ごせたことを感謝致します。

思い出雑感



情報電子工学科
教授 神田 徳夫

私が本校に赴任したのは開校2年目、高城の新校舎の管理棟部分が建ったばかりの頃であった。当時は砂漠の中にポツンと校舎が建ったような状態であり、雨が降ればグラウンド一面がぬかるみ状態となったものである。その頃は車の免許もなく、毎朝学生と一緒に歩き、あるいは自転車を押して高専坂を登っていたことが昨日のように思い出される。前任地では満員電車で揉まれて通勤していたが、毎朝小鳥のさえずりを聞きながら通勤できることは正に隔世の感すら覚えたものである。

本校は、私にとって最初で最後の教職の場となった。赴任当初は、中学卒業間もない学生にどの程度の専門をどんな形で教えるべきか、多少の戸惑いは禁じえなかった。電子工学関係の教科を担当したいと思っていたが、初代学科主任の故戸田圭一先生からプログラミングも担当するようにとの要請があった時は、それまで仕事で経験はあったものの専門外であり、うまく教育できるか多少の不安を覚えた。当時の学科実習用計算機は、OKITAC-4300C(ミニコン)であり、実習用情報媒体は紙テープであった。一人ずつ処理するバッチ処理であったため、1時間に10名程度しか利用できず、実習効率は極めて悪かったが、自然に徹底した机上デバッグが習慣となり、教育効率は決して悪くなかったように思う。その後、計算機の技術進展とコストダウンは目覚しく、本校においても1台/人の計算機環境が容易に実現できるようになった。しかし、実習効率は昔と比較にならない程向上しているが、教育効率はそれに見合っていないように感じられないのは何故だろうか。

就職指導を回想してみよう。1期生が5年生(昭和53年)の頃は景気が悪く、学校推薦で応募したにも関わらず応募書類のみで不採用となった学生も散見された。しかし、その後の就職環境は飛躍的に改善し、求人数も増加の一途を辿った。そ

の間、3期生(昭和55年)、12期生(平成元年)の4、5年の担任を担当したが、ほぼ全員を第1希望の会社に就職斡旋できた。しかし、バブル崩壊後に担当した17期生(平成6年)のときには、求人数が激減し、従来本校学生が就職していた企業も軒並み採用計画を取りやめるなど、今まで遭遇したことのない事態に直面し、大変厳しい就職指導となった。その後、景気は徐々に回復したが、バブル期に大量採用してバブル崩壊を経験した企業は採用に対して大変慎重となり、採用数を大幅に増加することはなかった。4回目の4、5年生の担任は約10年後の27期生(平成16年)の時である。その当時、技術系においても学校推薦と自由応募を併用する企業が大半となった。また、学校推薦は従前のように内定をほぼ保証するものではなく、採用試験を優先的に受けられる程度のもとなった。その結果、最終的には全員が就職できたものの、内定企業数/応募企業数は、約6割程度と厳しいものとなった。就職指導は直接学生の将来に関わることであり、大変神経を使ったが、今となれば、学生達と共に悲しみ、喜んだ思い出深い経験となっている。

最後の就職担当の後、3年、2年、3年と連続3年間低学年の担任を経験した。この間、最近の若者の悩みや物の考え方的一端に接することとなり、教員は学問の教授以外にすべきことが多くあることを実感させられた3年間であった。

定年退職を目前にした今、あつという間の34年間であった。特に後半の10数年は専攻科の設置、組織変更等々で大変慌しく過ぎ去った。今後、本校が教育の本質を見極めて、奇をてらうことなく、地道に発展することを祈念するこの頃である。最後に、いろいろな喜びや苦勞を味わわせてくれた卒業生、在学生、大変お世話になった教職員の方々に感謝の意を表して筆を置きます。

私とマイコンの34年間 (プロの技術者による実践的技術教育)



情報電子工学科
教授 重安 邦之

昭和50年に川崎のNECより新築の本校に29歳で着任しました。会社では集積回路の開発を5年間行っていました。最小単位が千分の1mmの世界で、設計ミスをするるとIC基板から作り直すために3ヶ月も遅れます。完璧な設計が求められ、気が休まることはありませんでした。今でも設計には細心の注意とこだわりを持っています。

ある時実家に電話をした際、徳山に高専を誘致する記事が市広報に載っているという話を聞き、教師でもやろうかと思いました。休暇を取って赤レンガ色の文部省に行き、高専を管轄しているところはどこですかと聞くと、大学学術局技術教育課ですと教えてくれました。若いキャリア官僚の係長が対応してくれ、何度か行くうちに希望が叶いました。何事にも当たってみるものです。

学校ではICは作れないので当時やっと使われ始めた米国インテル社製のマイクロプロセッサi4004を買ってマイコンを作ることにしました。デジタル回路は初めてでしたが、英文マニュアルを読みコンピュータを作ることができました。

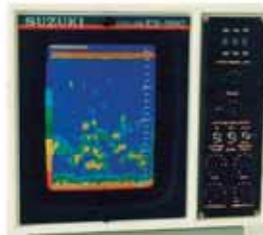


(自作のマイコン)

色々なプロセッサを使って多くのマイコンを作っているうちに技術も向上しました。昭和56年に恩師から、鈴木魚探(株)のカラー魚群探知機の開発の依頼がありました。2年後に完成し国内や北欧に向けて販売しました。当時はまだフルグラフィックの機能がパソコンにはない時代に、D-RAMを16個使って32kBのメモリを構成し実現しました。

そして、魚群探知機のリアルタイム画像処理で

多くの論文を書き、42歳の時に学位を取りました。



(駿河湾のシラス漁)



(流量計)

昭和60年より田布施のポンプメーカーで活魚用のDC-ACインバータや、空気の流量を測定するオリフィス流量計を卒業研究で開発し販売しました。

平成7年からは同系列の企業で卒業生と半導体用の真空ポンプの制御装置の開発を行いました。

これらを通して、マイコンを使った温度や圧力、電流や流量などの測定技術を学び、計測や電磁気の授業、また卒業研究の指導にも役立てました。



最近では技能五輪への参加や、卒業研究で製作した独居老人監視用のWebカメラ 'みまもり君' と創造演習で作った席替えルーレット 'どこどこ' の商品化が、新聞やタウン誌、KRY-TVで8分と大きく報道され、徳山高専の宣伝にもなりました。

全ては紹介できませんが、多くの装置を製作しました。これらの作品は、多くの優秀な学生の汗と涙の結晶です。装置の性能や信頼性は製作者の人間性を反映するものです。学生諸君が親になったとき、子供にしっかりした生き方を教え、信念を持った力強い人間に育ててください。

多くの方々にお世話になりました。恩に報いることができたか今問い直しているところです。

輝く君たちへ



土木建築工学科
教授 日南住 博

1977年、縁あって本校の教員として採用されました。以来31年間、とうとう退職の時期を迎えました。

この間、多くの学生諸君から寄せられた疑問・質問についてお答えしましょう。

先ず「専門科目（土木建築）に所属しながら一般科目である数学や物理あるいは応用物理を担当するのか。」ということです。これは初代校長城温三（じょう・おんぞう）先生のお考えによるものと伺っております。先生は基礎科目、特に数物系科目に力を入れようと考えられたとのことでした。幸いなことに本校の専門学科は複合学科としての教員定数が割り当てられており、その当時の他校に比べて定数が多くなっています。そこで各学科から1名ずつの定員を供出させ、これらの教員に数物系科目を担当させることとされたのです。私もその枠の一員として採用されたので専門学科に所属しながら数物系科目を担当することになった次第です。

次に、物理を担当しているときに多くあった質問で、問題を解くときに「どの公式をつかえばいいのか」といった類のものです。これについては少々困りました。というのも、物理の教科書を眺めてみれば「〇〇の法則」や「××の定理」はあっても「**の公式」はないからです。

そこで物理の問題を解くときの考え方の私見を述べて答えとしたいと思います。ただし、ここで述べるのは高校生レベルの問題を解く時の場合です。

（1）物理の問題はかなり長い文章で与えられることが少なくありません。与えられた文章を読んで、そこに書いてあることを理解しなければなりません。そのためには国語の力が必要です。問題文をノートに書き写すこともよいことです。この過程で題意を把握することも可能です。

（2）問題文を読み、そこに書いてあることを図

にしましょう。私はこの作業を「マンガを描く」と表現し、しばしば学生諸君のひんしゆくをかいました。しかしながら、この作業が終わった段階で、何が分かっており、何を求めればよいのかがしっかり分かるはずです。

（3）分かったことを式にしてみましょう。それでもできるだけ文字式で表現してみましょう。その後の計算も、できる限り文字式で展開してみましょう。文字式のほうが誤りを見つけやすいはずで、時には各項の次元を比較してみれば、より誤りに気づき易いと思います。

（4）最後に数値計算をする際は、どの文字にどの数値を代入したかが分かる式を書いておきましょう。これも誤りを早めに見出す方法です。そして計算間違いをしないように丁寧に計算を進めていきます。

如何でしょうか。

ところでそこで居眠りしている君。たまには物理の勉強を試みたら……。意外と面白いのですよ。

最後に自戒をこめて

「少年学ばざれば老後に知らず」

高専生活 36 年のあれこれ

土木建築工学科
教授 重松 恒美



大学卒業後土木系の民間企業に就職し、プレストレストコンクリート橋の設計施工に従事し、新幹線や中国縦貫道の橋などを多く施工した後、いろいろ考えることがあり研究生として大学に1年間戻り、また会社に帰ろうとしたら、せっかく研究を始めたのだからということで、呉高専に助手として入ることになりました。呉高専では2年間主に週2日は大学の方で研究に従事し、後4日は呉で教育、研究に従事する毎日でした。その後、徳山高専が新たに開校されると言うことで、たまたま私の大学の教授が石原俊先生（初代の土木建築工学科主任）と同じ鉱山学科出身で懇意な間柄ということで、また、現場出身の技術屋も必要ということで、徳山高専に配置換えとなりました。大学での1年間の研究生、呉高専での2年間の助手を通じて思ったことは、大学と高専では研究環境にかなりの差があり、高専で研究を大学に近いレベルで行うにはそれなりの考えが必要と思い、石原先生に大学の講座制に近い考えを取り入れたらと進言したところ、大学でも研究するのは大変なので、グループで研究環境を整えるのは好いことではないかと賛成され、構造、土質、材料、水理の4グループと建築土木の計画グループの計5グループが一様形としてできあがりしました。しかしながら中身はお粗末なもので、当初は年2回支部学術講演会と全国学術講演会に発表できればというのが目標でした。それでもこの環境で十数年が過ぎたころには、それぞれのグループで研究成果も上がり、土木4グループで2～3年の差で学位取得が可能となりました。その後、グループの若い先生方の学位取得が始まり、ほぼ順調に取得されました。しかしながら、このグループも学位取得後は、それぞれ考え方の違いなどが出てきて、一部グループの解散や、また新たなグループの結成などが始まりました。初代のグループ長の定年もはじまり、これからどのような発想で学科を維持発展させるのか、十分考慮して欲しいと思っています。特に、学位取得の後、研究業績が一部を

除き非常に少なくなっているのが気がかりです。グループ制から単独になってくると、ついノルマがなくなり研究に対する姿勢が低下していくようで、このままでは専攻科の維持ができるのか心配になります。環境建設工学専攻は他専攻と比較して、専攻科生の数が多いので、しっかりとした研究姿勢が必要だと思っています。

すべての高専で専攻科が設置された現在、やはり高専が内外ともに信頼され真の高等教育機関として成長を続けるためには、高専が統合し大学院の機能を有する機関に成長する必要があると考えています。この考えには反対の意見もあるかと思いますが少子化、国際性等を考慮すると今のままで高専が存在するとはとても考えられません。これからしっかりとした議論が必要だと思っています。

私の所属する構造グループでは専攻科ができる前からできれば国内学会以外に国際学会での発表ができるようにしようと目標をたててきました。幸いなことに語学にあまり苦労しなくてもよかったので比較的早い時期から外国雑誌への投稿や、国際学会への出席などを心がけてきました。専攻科ができてからは、構造系の専攻科生にはすべて国際学会での発表を義務づけており、学生もそれを受け入れて相当な努力をしています。発表では立ち往生など学生にとって大変ですがこれもいい経験になっています。すでに50件以上の発表を行っています。いい論文であれば、高専だろうが大学であろうが関係なく、是非多くの専攻科生に経験させて、外国の諸事情を知ること大切と思っています。国際学会ではいい論文を出せることが最大の評価となり、2～3年前に本構造グループで国際学会が開催できたことは記憶に新しいことと思います。いろいろな意味で先生方に余裕がなく大変忙しくなっていますが、高等教育機関である以上研究成果の向上が、学校の評価及び先生方の評価に繋がることは是非理解して欲しいと思います。

新 任 者 紹 介



一般科目 准教授

たかはし あい
高橋 愛

●ご出身はどちらですか？

宮城県古川市（現大崎市）です。

●本校にこられる前はどちらに？

東京にいて大学や予備校で非常勤講師をしていました。

●徳山高専の印象は？

風光明媚で、気持ちのあたたかい人ばかりだという印象です。また、来たばかりの頃には、山口弁がまったく分からず戸惑いました。

●ご家族は？

ひとり暮らしです。

●ご趣味はなんですか？

読書です（アメリカ文学が専門なので、研究とかなり重なるところもありますが）。純粋な趣味としては姫野カオルコ の作品、宇野千代や山口瞳や吉行淳之介のエッセーが好きです。最近は何らかビジネス書（仕事術や勉強法など）をやたらと読んだりもします。観劇や食べ歩きも好きです。

●今後の抱負をお聞かせください。

徳山に（学校にも街にも）早くなじんで、教育活動や研究活動に邁進していきたいと思ひます。どうぞよろしくお願ひします。



事務部長

ささやま きみお
篠山 公郎

●ご出身はどちらですか？

岡山県真庭市です。篠山だからといって丹波（兵庫県）出身ではありません。

●本校にこられる前はどちらに？

国立情報学研究所、東京外国語大学・・・などいろいろです。

●徳山高専の印象は？

周南市に聳え、徳山湾を見下ろすロケーションは最高です。教員、職員、学生が何事に対しても一生懸命と感じます。

●ご家族は？

妻、大学1年生の娘、高校2年生の息子が東京でノビノビ生活しています。

●ご趣味はなんですか？

- ①若い時は球技全般参加型でしたが、今は観戦
- ②バイク（45歳で免許取得）ですが、今は自転車でトコトコ市内見物
- ③たまに読書など

●今後の抱負をお聞かせください。

高専勤務は初めてですが、徳山での勤務に悔いを残さないよう信義誠実、一生懸命頑張りたひと思ひます。



学生課長

こだま あきひこ
小玉 明彦

●ご出身はどちらですか？

愛媛県松山市です。周南市から案内しますと、柳井港からフェリーで2時間30分のところですよ。道後温泉、俳人の正岡子規が有名です。

●本校にこられる前はどちらに？

愛媛大学医学部経営管理課予算管理係で勤務していました。病院予算管理、各種病院統計を担当していました。

●徳山高専の印象は？

徳山高専は閑静なところにあり、教育・研究を行うのは素晴らしい立地条件だと思います。学生は明るく活発で教育の最前線という感じがしております。また、地域と密接に連携し、周南地域の生涯学習機関的な役割を果たしているのだと思いました。

●ご家族は？

松山市に妻と末娘1人(高校2年)がおります。長女は既に結婚していて子供2人の母親です。次女は香川県高松市に就職しております。

●ご趣味はなんですか？

昼休みに、肥満防止のためバドミントンをしています。ゴルフは年に数回といったところでしょうか。

●今後の抱負をお聞かせください。

学生系の仕事は初めてで、戸惑うことが多々ありますが、1日でも早く仕事を覚え、徳山高専のために頑張りたいと思っています。



総務課施設係長

ふじばやし せいじ
藤林 聖司

●ご出身はどちらですか？

山口県山陽小野田市です。

●本校にこられる前はどちらに？

山口大学施設環境部に勤務しておりました。専門は機械です。

●徳山高専の印象は？

徳山高専は初めてで、山の上にあるとは聞いてはいましたが、これほどの坂の上にあるとは…自然いっぱいの静かな環境だと思います。

●ご家族は？

独身生活をしていますが、週末には帰省することが多いです。

●ご趣味はなんですか？

車いじりと運転かな、あと映画鑑賞を少々。

●今後の抱負をお聞かせください。

高専の業務は初めての経験で戸惑うことばかりですが、少しでも学校のためになるよう努めたいと思います。

今後ともよろしくお願いたします。



学生課学生係 主任

おにたけ あきのり
鬼武 昭典

●ご出身はどちらですか？

山口県下松市です。

●本校にこられる前はどちらに？

大島商船高専で5年半働いていました。

●徳山高専の印象は？

明るく、元気な学生が多いと思いました。
高専前の坂が長いと今でも思います。
夕日に照らされた徳山湾が一番綺麗に見えるい
い学校だと思います。

●ご家族は？

母親と2人暮らしです。

●ご趣味はなんですか？

体を動かすことが好きです。
特に水泳が好きで、自由形の50mを30秒き
ることとずーっと泳ぎ続けることが目標です。
スノーボード、バスケもやりますが、この2つは本
当に下手です。

●今後の抱負をお聞かせください。

何事も楽しんですることが出来る人になりたい
と思っています。
勉強不足のことも多く、ご迷惑をかけることも
あると思います。
よろしくお願いいたします。



総務課地域連携推進係

とくもと こうへい
徳本 航平

●ご出身はどちらですか？

生まれてこのかた徳山です。

●本校にこられる前はどちらに？

北九州で大学生をしていました。

●徳山高専の印象は？

季節を感じられるいいところだと思います。超
がつく文系なので、高専で見るもの、聞くこと
は色々新鮮です。

●ご家族は？

実家で3人で暮らしています。

●ご趣味はなんですか？

バスケでしょうか。あとは野球とかサッカーを
観に行ったりライブに行ったりです。基本的
にはインドアですが。

●今後の抱負をお聞かせください。

早いものでもう1年経ちました。マイペースと
よく言われるんですがこれからも自分らしく勤
めていければと思います。



学生課学生係看護師

よしもと さちよ
吉本 幸代

●ご出身はどちらですか？

山口県の防府市です。

●本校にこられる前はどちらに？

山口県立下松工業高等学校の定時制の養護教諭でした。

●徳山高専の印象は？

高校のカリキュラムに慣れていたせいか高専の時間割を見て少しびっくりしました。

まじめで礼儀正しい学生さんがほとんどです。あとは、高専坂から見る景色がすばらしいです。特に夕方から夜にかけての夜景が綺麗ですね。

●ご家族は？

実家で両親と4人暮らしです。

●ご趣味はなんですか？

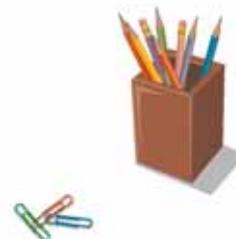
最近、温泉巡りにはまっています。山口県は良質の温泉が多いですね。

森林浴も兼ねて景色を楽しみながら自然の中でゆったりできる時間は最高の贅沢だと思います。

●今後の抱負をお聞かせください。

毎日が経験の積み重ねだと思っています。常に向上心を忘れない豊かな人間になれたらいいですね。

あとは「命の大切さ」に係わっていける職業につけたことに感謝しています。これからは、世の中のために役に立つ経験をしてみたいです。



写真で綴る「図書館だより」の27年間

図書館長

土木建築工学科 教授 佐賀 孝徳

昨年度、徳山高専の校舎改修工事に伴い、8月から図書館が閉館されました。同時に「きらめきコンテスト」の中止、5年生の時間外補助員も必要なくなり、主要な原稿が無いことから「図書館だより」も休止されました。

今年から、広報の一元化と費用削減から、高専だよりに図書館だよりを組み入れることが決定されました。そこで、これまでの図書館だよりの創刊号から最終号までをまとめることにしました。

示す作品が入選し、高専祭期間中に校長室で表彰が行われています。

昭和55年度 徳山高専図書館主催 第二回校内読書感想文コンクール入選作品発表					
優秀賞	集積と大宰 「人間失格」を読んで	(大宰 治)	ME4	磯 島 陽 一	
優秀賞	塩狩神を読んで	(三浦 綾子)	IE3	大 羽 光 子	
優秀賞	砂の女	(安部 公房)	ME2	森 弘 浩 行	
優秀賞	数学のおくりもの	(矢野龍太郎)	IE2	村 岡 敬 介	
	日本書見記	(小泉 八雲)			
佳 作	車輪の下に	(ヘルマン・ヘッセ)	IE2	清 水 美 蘭	
佳 作	「数学への招待」を読んで	(矢野龍太郎)	CA2	原 田 秀 則	
佳 作	ルウベンスの偽画	(堀 辰雄)	CA2	清 水 勝 博	
佳 作	意地悪爺さん	(北 杜夫)	IE1	稲 田 博 文	
佳 作	「河口にて」を読んで	(北 杜夫)	IE1	手 嶋 和 枝	

また、年3回のうち1回は新着図書リストの紹介がなされ、現在のような検索システムの有無を考えると、広報の時代の流れを感じざるを得ません。

第1号～第12号

(1980～1983年度；年3回発刊)

1980年度(昭和55年)に第1号が発刊され、初代校長城 温三先生が「牛歩の如く」を巻頭言で寄稿されています。本居宣長の言葉を用いて、難解な書を読むことにチャレンジすることの必要性和その事が人間性等を高めてくれることを指摘されています。

第13号～第39号

(1984～1997年度；年2回発刊)

1984年度の第13号から1997年度の第39号までは、年2回の発行となり、1984年度13号から1987年度19号までは、茶色系の単色刷り、20号からは表と裏のみカラー印刷が用いられるようになりました。また、1993年度(平成5年度)の31号まではB5版、1994年度の第32号からは、A4版でオールカラー印刷となりました。

第29号には、1992年度から開始された時間外開館の担当の学生であった若き日の張間先生(写真左)の文章も掲載されています。

牛 歩 の 如 く

学校長 城 温 三

人生は短い。であってみれば、どのような書物をどのように読んでゆくかということは、大切な事であるが、実際には、新聞や雑誌を読む場合もあれば、人生の真理を求めて古典を読むこともあり、また、専門書を読むこともあるわけであって、その種類内容ともに千差万別である。

いずれの場合にも、一読して理解できるような書物は、ほぼ自分と同じ次元にある内容のものであって、自分を大きく向上させるためにはあまり役立たないものである。

このような意味からすれば、できるだけ読みごたえのあるような書物を選択することが望ましいわけである。

一方、難解な内容の書物に接すると、やゝもすると、手放したくなるものであるが、真に読むに値するようなものを読む心構えについて、本居宣長の言(うひ山ぶみ)をかりれば、次のように言っている。

「いづれの書を読むととも、初心の程はかたはしより文義を解せんとはすべからず、まず、大抵にさらさらと見て、他の書にうつり、これやかれやと読みては、またさきに読みたる書へ立ちかえりつゝ、幾遍も読むうちには、初めに聞かえざりしことも、そろそろと聞かゆるようになりゆくものなり。」

この短い文章の中にも、宣長の読書体験がよく示されているように感じられる。

急がず慌てず、広く読めば、おのずから意が通じ、書物の選択もできるようになるのではなからうか。

1983年度の12号まで、年3回B5版の白黒印刷で発刊されています。第2号には、第2回校内読書感想文コンクールの結果が公表され、70編の応募の中から、2段階の審査を経て、下記に



第13号から表紙には、写真（野球場から見た図書館全景）が掲載されるようになり、第19号（読書感想文受賞風景）まで校内で撮影された写真が掲載されています。



野球場からみた
図書館全景
(1階は学生館)
1992年3月 撮影
1993年3月27日竣工

第20号から、カラー写真（笠戸大橋より徳山高専を望む）が用いられ、撮影も校外に広げられ、



笠戸大橋より徳山高専を望む

さらに第23号（貴船神社渡御祭）からは撮影に加え、その解説も企画されました。以下にその代表的な写真を示します。

第24号では八代の鶴、第26号では（万葉の森の大賀ハス）、第28号（マルミミ象）、第30号（花岡・福德稲荷例祭）、第31号（ふく）が掲載されました。



第23号 貴船神社渡御祭

旧暦の6月、安全と大漁を祈願して、周南市給島貴船神社と荒神森の間を神輿渡御(みこしとぎょ)が行われる。



第26号 万葉の森の大賀ハス

2千年以上前の地層から掘り出されたハスの実がよみがえり、再び花を咲かせたというハスである。発見者である大賀一郎博士の名前から「大賀ハス」という。



第28号 マルミミ象

日本の動物園では徳山動物園・旭山動物園・沖縄こどもの国の3カ所のみで飼育されているめずらしい象である。



第30号 花岡・福德稲荷例祭

毎年11月3日に、下松市福德稲荷では「稲穂祭」が行われる。白狐の面をかぶった新郎新婦が人力車に乗り、それに続く行列が「狐の嫁入り」として有名である。

.....

第40号～第48号

(1998～2006年度；年1回発刊)

1998年度の第40号からは年1回の発刊とな

りました。

第40号から第1回きらめきコンテストが始まり、これまで19回を数える読書感想文の部門に加えて、小説・童話部門、詩歌部門、エッセイ部門、科学論文部門が設けられました。39作品の応募の中から、以下の作品が選出されました。

第1回きらめきコンテスト入選作品発表

きらめき大賞	会東原り(小説・童話部門)	1年1組	河村 舞
優 秀	小説・童話部門	Sharing Time	情報電子工学科4年 宮本 浩一郎
	詩歌部門	詩集Lens/月の裏側	機械電気工学科4年 金原 純一
	読書体験記部門	「怪物話」を読んで	1年1組 竹村 大輔
	科学論文部門	社会の動きと音楽の流れ	2年2組 吉 河 和 城
入 選	読書体験記部門	「夏の紙」を読んで	1年1組 松 田 智恵子
		「『静まじめ』のすすめ」を読んで	土木建築工学科3年 山 本 真由美
ガスター			機械電気工学科5年 松 尾 武

また、この号では児玉神社が写真として掲載されています。第40号から第46号まで以下の写真が選ばれ、第47号、第48号では再び学校の写真が掲載されています。



第40号 児玉神社



第41号 湯野温泉 坊ちゃん像
周南市湯野温泉には、夏目漱石の小説「坊ちゃん」のモデルといわれる弘中又一の旧宅がある。漱石とは松山で一緒に教師をした仲である。



第42号 徳山市文化会館 飛躍



第45号 漢陽寺

臨済宗鹿苑山漢陽寺は、大本山南禅寺別格地として、山口県下屈指の名刹である。開基は応安七年大名大内盛見、開祖は室町時代の名僧、用堂明機禅師である。



第47号 徳山高専校舎

今後は、毎年3月に発行される高専だよりに、きらめきコンテスト入選作品、時間外補助員の1年間の感想が掲載されることとなります。また、インターネット環境下では、徳山高専ホームページの高専だよりの中で常に見ることが可能となります。



第10回徳山高専きらめきコンテスト

優 秀

『「心」をテーマにした五つの言の葉』
情報電子工学科5年 作本 みなみ

一、やさしさ

やさしさを拾ってきた

ずっと探し続けていたそれは
キラキラ光るわけでもなく
気付けばふんわりと
雲みたいそこにあった

これを飲み込んだら
私もやさしくなれるだろうか
誰かを愛せるだろうか
そう思ってばかりと食べた

ひとくち齧るごとに
じんわり じんわり
心に染み渡って

わたがしみたいなのは
涙でしおからい味がした

二、涙

雨の一滴

雪の結晶

海のしずく

雲のひとひら

大いなる自然の中を
巡り巡った
ひとしずくが

いま わたしの頬を
伝っている



三、お天気

「今日は空が青いね」
と

めずらしく

空を見上げて笑う
君の心は晴れ模様

そんな君と並んで歩き
自然に顔が綻んだ
私の心も晴れ模様

四、おおきな安心

ひとりぼっちよりは
ふたりぼっちのほうが
いくらか余計に寂しいことを
最近知った

傷つけ合っても 許し合えていたはずなのに
甘え合っても 支え合えていたはずなのに
いつの間にか
許すことを忘れて
支えることを忘れて
おおきな安心の中で お互いひとりきりになって
しまっていて

曇ったショーウィンドウに映る
ふたりの表情を見て

あなたが長い長い間 わたしを守ってくれた
暖かくて居心地の良い その場所から
飛び立つことを決めた

五、雫

涙は暖かい
とても暖かい

愛する人が流してくれる涙は
乾いた心を潤す雫

愛する人のために流す涙は
豊かな心に溢れる雫

入 選

『モラトリアム』

土木建築工学科5年 藤武 麻衣

『伝えたい言葉』

情報電子工学科5年 梶山 由紀



第10回きらめきコンテスト 選考経過と講評

図書館長

土木建築工学科 教授 佐賀 孝徳

平成20年度第10回きらめきコンテストには、7作品の応募がありました。6名の選考委員で審査が行われ、大賞は、該当無し、優秀賞には、詩歌部門（詩）で応募された情報電子工学科5年作本みなみさんの作品『心』をテーマにした五つの言の葉』、入選には小説・童話部門で土木建築工学科5年藤武麻衣さんの作品『モラトリアム』、詩歌部門（詩）で情報電子工学科5年梶山由紀さんの作品『伝えたい言葉』が選ばれました。表彰は、高専祭のオープニングで既に表彰されています。（写真）

作本みなみさんの作品は、「やさしさ」「涙」「お天気」「おおきな安心」「傘」の詩から構成されています。どの作品にも登場する人物の心象が叙情的に表現されており、思わずその情景や人物の情動に引き込まれる作品で、委員から高い評価を得ました。

藤武麻衣さんの作品は、激しい音をイヤホンで聴く若者の男性と音楽の詩の意味、言葉の意味を探ろうとする同年代の女性との会話を通して、心理学者のエリクソンが指摘するこの世代特有の心理・社会的モラトリアムの状況を描いています。あらゆることの意味や成長を拒絶する若者像が、対比の手法により、際立たされた作品です。

梶山由紀さんは、長い時間を共有した部活動の仲間たちとの出来事が詰まった言わ

ば心のアルバムを開き、回顧した作品です。輝いた仲間たちの姿、最期まで諦めない姿、仲間を信じめく姿、声を哽らしながら応援する姿、これらの信頼関係、勇気づけられたこと、共有できた夢、学んだ大切なことを詩にしています。さらに、仲間との出会いに感謝し、そして、言葉で語りつくせない多くのことを今後も互いに忘れず、再会できることを願い、最後に仲間に伝えたい言葉「ありがとう」で締めくくっています。

どの作品も、若い感性溢れる想いが言葉に表されて、心を揺り動かされました。これらの3作品は本校図書館で閲覧が可能です。ここで紹介した入賞作品以外の応募作品も含め、熟読させて頂いたことに感謝したいと思います。また、次年度には、徳山高専で活動した様々な体験や想いを文章にした創作作品、読書感想文など、数多くの作品が応募されることを期待いたします。



図書館時間外開館 補助員の感想

■機械電気工学科5年 橋本 征磨

私が図書館の補助員としての仕事を通して感じたことは、学生のみなさんが図書館を有効に活用できていないということです。図書館にはためになる本が多く特に編入を目指す人にとっては有益である数学などの本が多数あります。学習環境としてもテスト前を除けば静かでもよい場所だと感じます。是非一度利用してみてください。

■機械電気工学科5年 細田 将吾

業務をこなしていく中で、徳山高専の図書館には私達の読むべき、また興味を引く本・雑誌・新聞がたくさんあることに気がきました。今まであまり利用してこなかった学生にも是非図書館に足を運び、マナーを守った上で、たくさん本に触れていただきたいと思いました。本に囲まれた静かな環境の中、このような貴重な経験をさせていただいたことに感謝をしています。

■情報電子工学科5年 渡邊 真司

今年は、校舎改修があり9ヶ月間の勤務でしたが良い経験ができました。

土曜日だけの勤務だったので、利用者はあまり多くはありませんでした。しかし、利用者の多くは静かに図書館を利用してくれていたのうれしかったです。書架の整理や除籍処理は大変だったけど、図書館での仕事を知ることができたので良かったと思います。

■情報電子工学科5年 松尾 悟志

図書館時間外開館補助員をするのも残りわずかになりました。仕事の中で最も大変だったのが本の整理でした。図書館はとにかく本の冊数が多いため、数冊位置が間違っているだけでも棚1つ分の本を移動させなければならないときもありました。このことから整理・整頓の重要性を感じました。この仕事の経験を今後に生かせるようにしたいと思います。

■情報電子工学科5年 山本 真由美

私は、今まであまり図書館を利用していませんでした。一年生のときに図書館を利用して以来、敬遠していたのです。どこに何があるのか分からず、専門書ばかりで訳が分かりませんでした。しかし、図書館のバイトを始めてからは図書館の有益さがとても分かりました。図書館時間外開館補助員は本や新聞に触れるとてもいい機会でした。

■情報電子工学科5年 長谷川 京子

補助員をやってみて分かったのは、図書館の業務は力仕事が多くあって思っていた以上に大変だということです。でも普通に利用するだけでは決して味わう事の出来ない貴重な体験をさせていただきました。好きな本に囲まれて仕事をする事が出来てとても楽しかったです。これからも沢山の本を読んで多くの事を学んでいきたいと思っています。

■土木建築工学科5年 安澤 かな

まず仕事の内容が多岐にわたることに一番驚きました。それらは図書館を快適に利用するためには必要な仕事なのですが、本の返却と貸出くらいが仕事と思っていたので驚きました。また、本の所在変更やラベル貼り、磁気を入れたりなどの作業をさせていただき、一冊の本を貸し出せる状態にするまでにもたくさんの過程があるということを知りました。

■土木建築工学科5年 三浦 早也香

図書館の仕事は図書の登録・廃棄処理や棚の整理、掃除など力仕事も多くあります。慣れるまではかなり大変でしたし、数十冊の本に延々と消印を押した時には腱鞘炎になるかと思いました。しかし、幼い頃からの夢だった司書の仕事を少しでも経験することができ、とてもうれしいです。今回学んだことを忘れず、今後活かしていきたいと思っています。



編集後記

平成20年度は耐震改修工事の完了した新校舎で始まりました。本校の建物が新たな時代の基準に適合させて変化を遂げたのです。世の中も大きく変化する中、校舎だけでなく我々も変わって行かなくてはなりません。

本号では、学生の皆さんが新たな社会へ旅立つ準備のために活動している「進路支援室」について特集記事を組みました。さらに「就職・進路状況」を各学科担当教員から説明していただき、学生の皆さんの体験記も載せています。「卒業生だより」を含めて、在校生や保護者の皆様には、今の自分をいかに変えていくかのヒントとなる貴重な情報が満載されています。

また、今年度は徳山高専の発展とともに活躍されてきた先生方が6名退職されます。先生方から我々へのメッセージは、長期的視野から見た今後の本校の行方を示唆するものでもあります。世の中が変わっても、それに対応し、よりよい方向へ変革を遂げる姿勢にはいつの時代にも共通のものがあるような気がします。

最後に、年末年始のお忙しい中、本号に執筆頂いた皆様、執筆依頼から校正まで協力して下さった皆様に、改めてお礼を申し上げます。(K.F.)



本校の「設計情報工学」プログラムは、日本技術者教育認定機構(JABEE)から認定を受けています。



COLLEGE OF TECHNOLOGY
ACCREDITED
Mar.2007

本校は、平成18年度に独立行政法人大学評価・学位授与機構の認証評価を受け、認証評価基準を満たしていると認定されました。

徳山工業高等専門学校 Tokuyama College of Technology

徳山高専だより No.62

発行 総合企画室
所在地 〒745-8585 山口県周南市学園台
TEL (0834)-29-6200(代表)
FAX (0834)-28-7605(代表)
印刷 三共印刷
発行日 2009年(平成21年)3月5日
URL <http://www.tokuyama.ac.jp/>

Tokuyama College of Technology
